平成２７年度キャリア教育の普及・啓発に係る指導資料

平成２７年度改訂版
都立知的障害特別支援学校清掃技能検定
テキスト

平成２８年３月

東京都教育委員会

平成２７年度改訂版

都立知的 障 害特別支援学校清掃技能検定テキスト

目次

１　はじめに ---------- １ページ

２　テーブル拭き ---------- ３ページ

３　自在ぼうき ---------- ６ページ

４　モップ ---------- １０ページ

５　ダスタークロス ---------- １６ページ

６　ウインドウスクイージー ---------- ２０ページ

７　ポリッシャー ---------- ２６ページ

８　掃除機 ---------- ３１ページ

９　トイレ

９－１　洗面台 ---------- ３６ページ

９－２　小 便器 ---------- ３９ページ

９－３　洋式便器 ---------- ４２ページ

１０　受検に当たって ---------- ４５ページ

１１　評 価について ---------- ４６ページ

１２　おわりに ---------- ４８ページ

資料編

床清掃会場の規格、各種目の制限時間 -------- ４９ページ

検定表（平成２８年２月版）----------５２ページ

1　はじめに

（1）改訂版清掃技能検定テキストの発行に当たって

都教育委員会では、都立知的障害特別支援学校高等部普通科における職業教育の充実に向け、平成１９年度から、清掃技能検定（以下「検定」とします。）を実施しています。

清掃技能を身に付けることは、高等部を卒業した後にも、あらゆる職場において役に立ちます。また、手順を覚え、手順に従い業務を遂行する力を身に付けることも、あらゆる職場において役に立ちます。

検定により、より多くの生徒に清掃技能を身に付けることのできる機会が広がっています。

さて、検定を行うに当たっては、清掃の手順や評価の方法を定め、受検者にあらかじめ周知する必要があります。都教育委員会では、（公益社団法人）東京ビルメンテナンス協会に御協力をいただき、平成２１年３月に「清掃技能検定テキスト」を初めて発行しました。平成２８年度に検定実施開始１０年目を迎えるに当たり、改訂版のテキストを発行することにしました。

本改訂版テキストでは、最新の検定表のほか、トイレと掃除機の手順について掲載しました。トイレはどの建物にもありますし、カーペット敷きの建物も多いことから、この二つの種目の技能を身に付けることは将来に渡って役立ちます。

本改訂版テキストを活用し、多くの生徒の皆さんが、清掃についての高い技術を身に付け、卒業後の生活に役立てられるようになることを期待しています。

（2）検定で得られる効果

検定をとおして、次のような効果を期待しています。

生徒にとって	級の認定を受けることで自信が付く。次の目標が明確になり、意欲が向上する。
教員にとって	検定の基準が明確なため、生徒に合わせて指導の改善が図りやすい。
保護者にとって	学校と連携しやすくなり、家庭での取組の仕方も明確になる。
就労先にとって	生徒の作業能力を客観的に把握でき、必要な支援の把握が容易になる。

（3）清掃の目的とポイント

清掃の目的は、汚れているところをきれいにすることですが、清掃を専門的にされている方々の中では、次のように定められています。

清掃の目的
1　環境衛生を向上させる。
2　建物を長持ちさせる。
3　建物の見た目の美しさを増す。

また、実際に清掃を進めていく上での基本的なポイントとして、次の５点が挙げられています。正しい技能を身に付ける上での基本となりますので、常に意識しながら作業をするよう心掛けてください。

清掃の基本的なポイント

1　**上**から**下**へ
(例)　天井からゴミを落としてから床清掃をする。
上の窓を拭いてから下の窓を拭く。　など

2　**奥**から**手前**へ
(例)　教室の奥から出入り口の方へゴミを掃き、集める。　など

3　**狭いとこ**ろから**広い**ところへ
(例)　トイレでは個室からゴミを掃き出してから広い床面を掃く。　など

4　**隅**から**中央**へ
(例)　テーブルを拭くときは、まず縁を拭いてから真ん中を拭く。　など

5　**きれい**なところから**汚い**ところへ
(例)　便器を清掃する前に洗面台清掃やペーパーの補充をする。　など

（4）より良い作業を行うためのサービス精神とマナー

清掃は建物の内外をきれいに保ち、そこを利用する方々に気持ち良く過ごしてもらう仕事です。だからこそ、清掃の技能を身に付けるだけでなく、マナーにも十分気を付けることが必要です。

例えば、作業に当たる際には、服装や身だしなみ、姿勢や表情、言葉遣いにも気を付け、周囲の方に不快な思いをさせないように注意しましょう。また、仕事として取り組むのですから、一緒に清掃をする方々への報告、連絡、相談などをしっかり行うようにすることも大切です。

サービス精神とマナー（お客様を意識する。）

サービス精神：親切に、誠意をもって仕事をすること。
マナー：周囲の人に不快感を与えないこと。

①　言葉遣いに気を付ける。
②　作業服はきれいに洗濯してあるものを使う。
③　用具（資機材）を清潔にしておき、正しく使う。
④　通行人に注意する（よける、挨拶をするなど）。
⑤　報告、連絡、相談を徹底する。

2 テーブル拭き

（1）手順

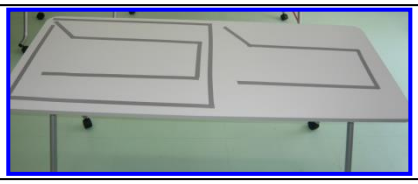
手順①：資機材準備

手順②：タオルを正しく畳んで、正しく絞る

手順③：テーブルを拭く

手順④：点検

手順⑤：報告



検定には横長のテーブルを使用します。写真のようにテープを貼って練習するのもよいでしょう。

（2）テーブル拭きでの約束

約束①：拭いた後は触らない。

約束②：同じ所を何回も拭かない。

（3）用意するもの

白タオル　１枚

黄色タオル　１枚

バケツ　１つ

タオルは清掃の基本です。様々な場所をタオルできれいに拭きますが、トイレで使用したタオルで食卓を拭いたら、せっかくきれいにしたはずなのに、かえって不潔になってしまいます。そこで**タオルは使用場所ごとに色分けして使用**します。検定では、**テーブルの上は黄色タオル、便器以外の場所は全て白タオルを使用**することとします。

（4）作業の流れ

手順①：資機材準備

タオルの色に注意します。

机とバケツの位置です。👣の側に立って拭きます。

資機材置き場から、**まず白タオル**を作業するテーブルの左側に敷きます。黄色タオルは床に着けてはいけないので、白タオルと一緒に持たないように注意しましょう。**次に黄色タオル**を正確にたたみます。畳んだら白タオルの上に置くなどして、床に着けないようにしましょう。**最後にバケツ**を取り、水を３分の１入れ、床に敷いた白タオルの真ん中に置きましょう。

手順②：タオルを正しく畳んで、正しく絞る

タオルの畳み方

タオルは通常**八つ折**の状態で使用します。タオルの折り畳み方にもルールがあり、いつも**長い方を折る**ようにしていきます。タオルを**もみ洗いするときは四つ折の状態**に広げて洗い、**八つ折から１６折にして絞った後、八つ折の状態に畳み直し**て使います。

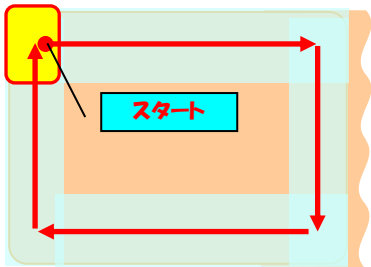
タオルの絞り方

床で作業を行うときには**転倒防止のため片膝を床に着いた姿勢**をとります。この時膝を着いた方の足は**つま先を立て、すねを床にべたっと着けない**ようにしましょう。タオルを絞るときはタオルを**１６折**の大きさにし、親指と親指がくっついてしまうような絞り方ではなく、**バットと同じ握り方**で**タオルを下に向けて水が流れ落ちやすいようにし**、**腕を伸ばしながら外側から内側へ**絞ります。タオルをしっかり絞ったら、**立ち上がる前に手に付いた水滴をタオルで拭きとり**、床に水を垂らさないように注意しましょう。

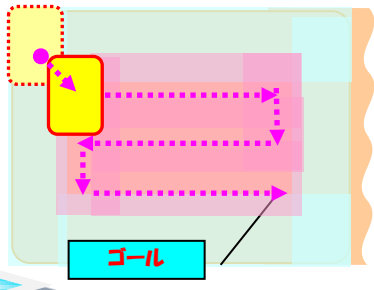
タオルの持ち方

八つ折にしたタオルを**縦長**にします。**タオルのばらけている方が親指側にくる**ようにし、**親指でばらけている方を軽く挟みます**。このとき**手がタオルの中心**にくるようにし、**指もしっかり伸ばして**タオルが浮かないようにします。（小指側も軽く挟んでおくと作業中にタオルが丸まったりしません。）

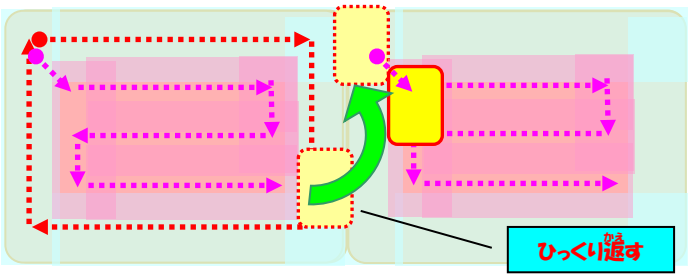
手順③：テーブルを拭く

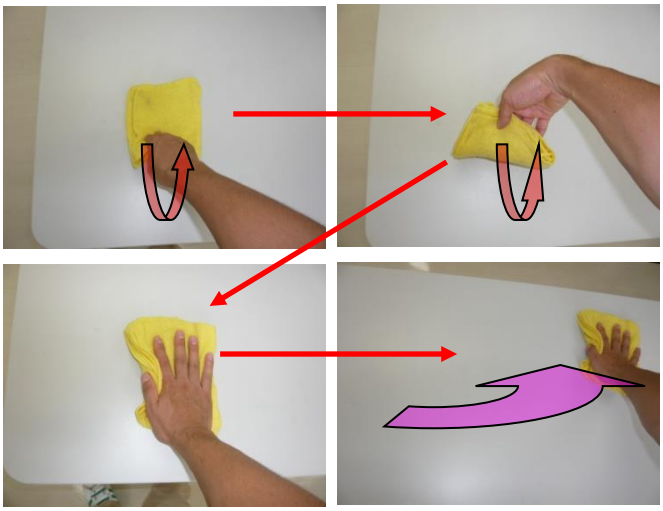


まず**タオルを持った手から遠い角から**拭き始め、長テーブルの半分を１周するように拭いていきます。このとき、**縁を拭き残さない**ように、タオルがテーブルから少しはみ出すくらいのイメージで拭くようにします。テーブルを押さえるときはテーブル面の下から手を添えて押さえます。



１周してスタートの位置まで戻ってきたら、**拭いた後が少し重なるように**して、タオルを**右斜め下**に下げます。その位置からタオルを**まっすぐに右→下→左**と動かし、**隙間なく**拭いていきます。テーブルの縦幅が長い場合はこの動作を更に続けます。



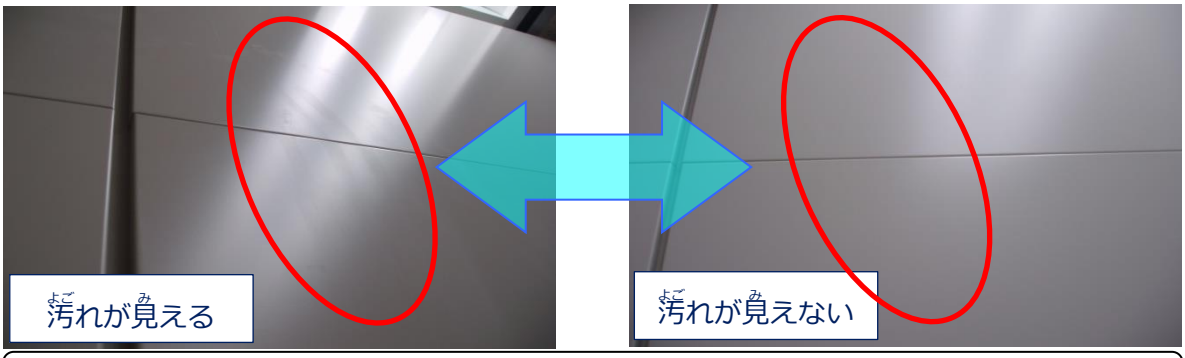


長テーブルの左半分が終わったら、右半分を、左半分と同じように拭いていきます。

左半分のゴールの位置でタオルを写真のように**縦にひっくり返し**、そのまま右半分のスタートの位置に持っていきます。ひっくり返したあとに、タオルのバラバラの方が親指側にきているか確かめましょう。

左半分から右半分へ移動するときに、真ん中の部分に拭き残しが出ないようにテーブルから目を離さないようにしましょう。

手順④：点検



テーブルの全面を拭き上げたら、きれいに汚れが落とせたかどうか点検をしましょう。一見きれいなようでも、写真のように角度を変えて見てみると、汚れが浮き上がって見えることがあります。また、拭き残してしまった部分も**角度を変えて見る**と分かるので、**必ず点検を行いましょう**。テーブルを押さえるために、テーブル面を触ってしまった場合は、手の油分が残ってしまうので、その部分も必ずきれいに拭き取りましょう。

手順⑤：報告

全ての工程が終了したら、黄色タオルをバケツにかけます。姿勢を正し、はっきりした声で「終わりました」と報告をしましょう。

参考：左利きの場合

左利きの方で、左手でタオルを持って作業する場合は、タオルの持ち方やバケツを置く位置、拭き始めの場所などを、全て右利きの場合と逆にして作業を行うようにしましょう。

3　自在ぼうき

（1）手　順

手順①：資機材準備

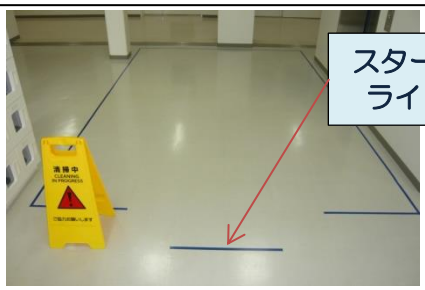
手順②：自在ぼうきを正しく持って構える

手順③：床を掃いてゴミを集める

手順④：ゴミを文化ちりとりで取る

手順⑤：点検

手順⑥：報告



検定はＰタイルやビニールシートの床におがくずをまいて行います。

（2）自在ぼうきの約束

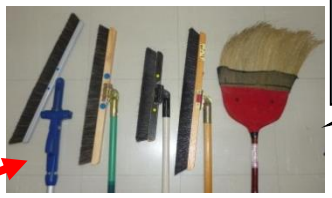
約束①：掃いた後しか歩かない(ゴミの上を歩かない)。

約束②：ほうきは最初から最後まで同じ面で掃く。

（3）用意するもの

ほうきは用途に応じて何種類かを使い分けなくてはなりません。本検定のように室内を清掃するためには、自在ぼうきを使用します。自在ぼうきにも３種類あり、**幅の狭いものは階段用、赤いシールが付いているものはトイレ用**として使い分けます。ここでは**青のシールが付いているものをフロア用自在ぼうき**として床の除塵(ごみを取ること)を行います。

各ほうきの用途を覚えておきましょう。



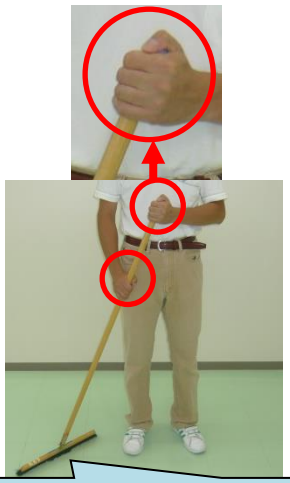
（4）作業の流れ

手順①：資機材準備

まず作業表示板をコートの出入口付近に立ててから、フロア用の自在ぼうきと文化ちりとりを選びます。**文化ちりとりは出入口の脇**のところに、**出入口にかからないように裏返して置き**、自在ぼうきだけを持ってスタートラインに立ちます。

手順②：自在ぼうきを正しく持って構える

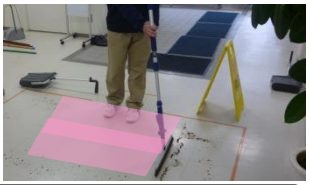
自在ぼうきは左右どちらでも扱えるようにならないといけませんが、基本として**左手が上、右手が下**の形を練習しましょう。初めに、**ハンドルをあごの下の高さで調節**します。**次にほうきの向き(シールの位置など)を確認**します。掃き続けていく面は常に同じでなければいけないので、どちらの面で掃き始めたかを忘れないようにしましょう。掃くときは、**左手の親指でハンドルの先端を押さえ**ます。これは作業中にお客様や窓などにハンドルが当たってケガをさせたり壊してしまったりしないようにするためなので、必ず押さえます。



シールが貼られていないほうきはねじの位置などで掃き始めの向きの目印にしましょう。

手順③：床を掃いてゴミを集める

出入口



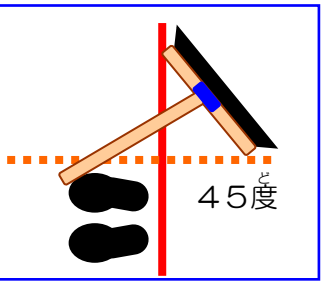
自在ぼうきの約束は「**掃いた後しか歩かない**」です。いきなりコート内に入らずに、**コートの外から自分が歩く場所を右から左へ3～4列ほど掃きながら**からコートに入ります。

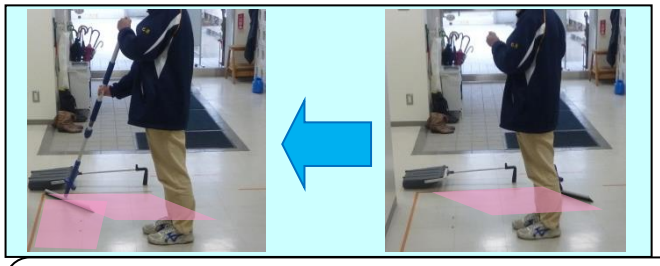
おさえばき

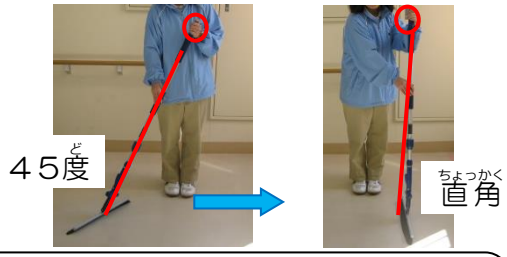
自在ぼうきは、ほこりを巻き上げないように、**毛先が軽くしなる程度の力で床に押し付けながら**丁寧に操作します。これを**「おさえばき」**と言います。おさえばきで左足の外側まで掃いたら**トントンと床に毛先をたたきつけ、ゴミを落とします**。トントンは自在ぼうきを**1回操作するたび**に行います。

壁際

自在ぼうきは**自分の右側**に、図のように**斜め45度**にして、**かかとのラインより後ろに**かまえます。足はそろえて真っすぐに立ちます。ほうきの**掃く面が変わらないように確認**します。

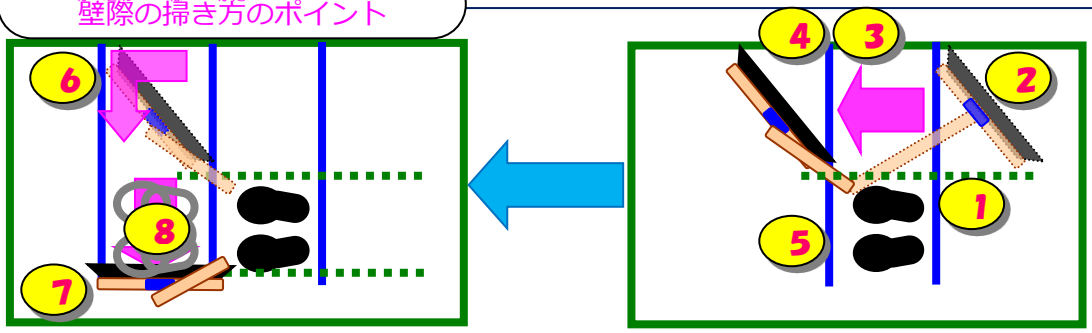






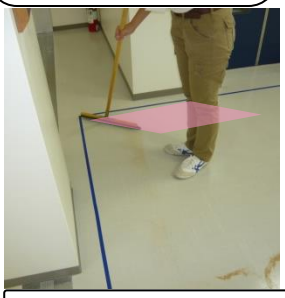
コート内に入り、**右回り**で除塵を進めていきます。自在ぼうきの角度を**45度で保ったまま**、**つま先より前**まで押し出します。このとき**毛先が壁(ライン)から離れない**ように注意しましょう。次につま先より前に出した自在ぼうきを、**真横に動かします**。掃いた跡が**直角**になるように注意します。手首はできるだけ動かさず、右腕を動かして操作します。つま先の前を掃くときには、左手を前に出さないようにし、自在ぼうきの横木が毛先より先に進むように動かします（押し掃きにならないようにします）。**おさえばき**で進みますが、掃いているときは歩かないようにします。

壁際の掃き方のポイント



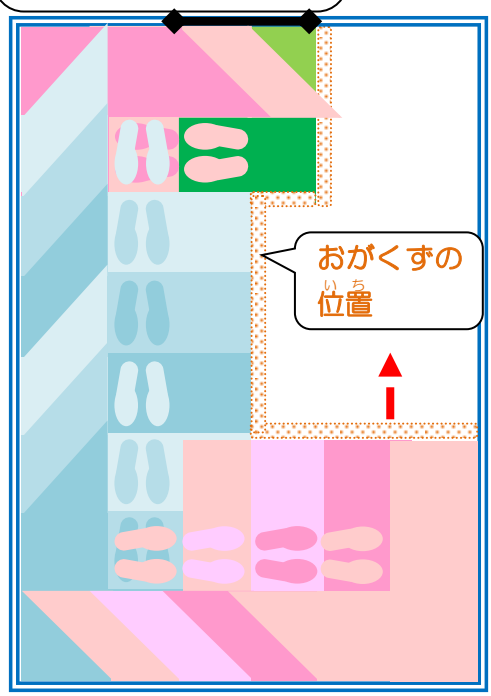
1. かかとより後ろから
2. 斜め45度
3. 45度のまま
4. 壁からはなれない
5. つま先より前
6. 直角になるように
7. 左足の左側でトントン
8. 一歩前に進む

隅

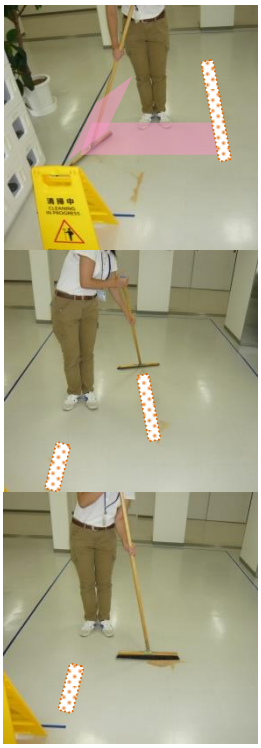


角まで隙間なく掃き進んだら、向きを変えて同じように掃いていきましょう。

ゴミを集めながら前進

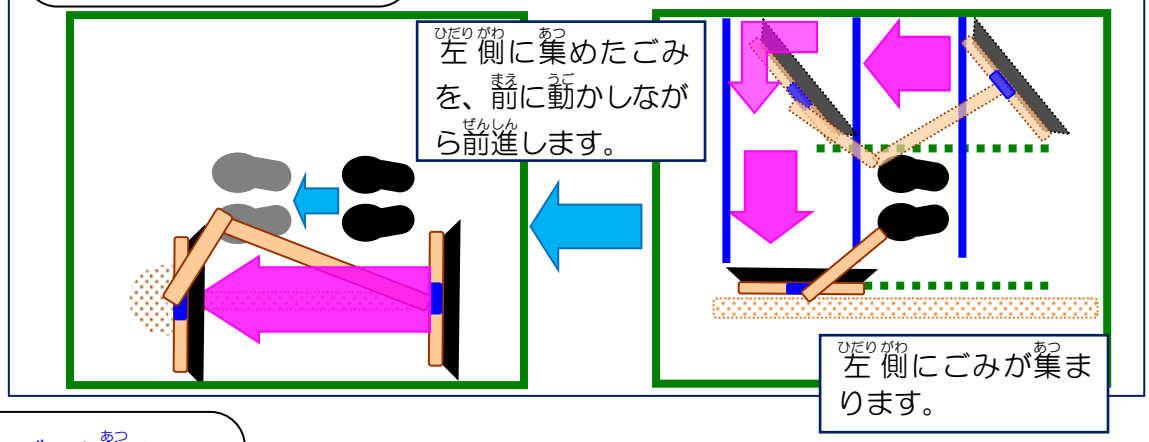


左の図のように掃き進んできたら、出入口の方へ向かって、今までと同じように２～３回掃きます。**ほうきを自分の体の右側(右手が下、左手が上)から左側に持ち替え(右手が上、左手が下)**、後方のゴミを前方へと掃き出します。その際も**掃き始めと同じ面で掃くよう**に気を付けましょう。

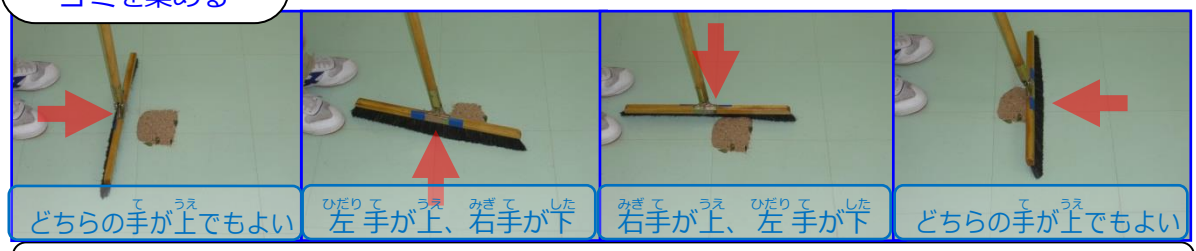


出入口のところまで除塵したら、ゴミを小さくまとめます。このときも**自在ほうきの向きや持ち方に注意し、トントンも忘れずに**行います。

ゴミを集めながら前進

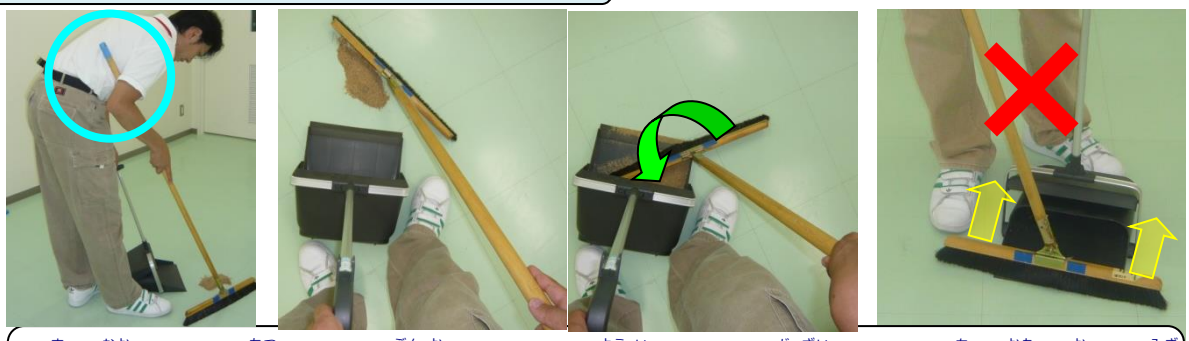


ゴミを集める



掃き始めから最後まで**常に同じ面で掃く**ように、ほうきの向きにはいつも注意が必要です。ほうきの向きを変えるときはゴミを移動させる方向によって手の持ち替えをします。持ち替えをしたときに、**上の手は必ずほうきのハンドルの先端を親指で押さえます**。

手順④：ゴミを文化ちりとりで取る



真ん中にゴミを集めたら、文化ちりとりを用意します。自在ぼうきは持ち方を変え、右手でハンドルの真ん中辺りを持ち、**ハンドルの先端は脇に抱え**、左手に文化ちりとりを持ちます。ちりとりの後方に立ち、**ほうきの毛先の前半分をちりとりの中に入れる**ようにゴミを取ります。毛先全体をちりとりにぶつけるとゴミが両脇からこぼれてしまいます。

手順⑤：点検

ゴミを取り終えたら、もう一度ゴミが残っていないか確認しましょう。壁際や、ちりとりを使ったところはゴミが残りやすいので特に注意深く**点検**し、取り残しがあったら速やかに取り除きましょう。

手順⑥：報告

全ての工程が終了したら、**資機材を元の場所に戻します。**スタートラインに立って姿勢を正し、はっきりした声で報告をしましょう。

4 モップ

（1）手順

手順①：資機材準備

手順②:ラーグ(ふさいと)とハンドルをセットする

手順③：ラーグ(ふさいと)を絞る

手順④：モップで床を拭き上げる

手順⑤：点検

手順⑥：報告

検定はＰタイルやビニールシートの床に机を置いて行います。

（2）モップの約束

約束①：拭いた後は歩かない。

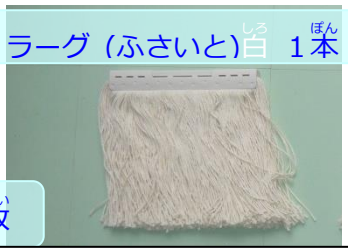
約束②：壁や机の足などにモップのラーグ(ふさいと)をつけない。

（3）用意するもの

ハンドル（柄）　１本

作業表示板　１枚

ラーグ（ふさいと）白　１本



横木(青)　横木(赤)

モップの検定ではワンタッチモップを使用します。ラーグ（ふさいと)はタオルと同じように使用する場所や用途によって色分けをして使用します。上の写真のようにふさいとのプラスチックの部分(横木・げた)が**赤いものはトイレ用、青いものはワックス用、白いものはその他**という分け方が一般的です。**本検定では横木が白いラーグ（ふさいと)**を選ぶようにしましょう。作業表示板は、お客様に清掃中であることの注意を促す上でとても大切なものですので、忘れずに準備しましょう。

（4）作業の流れ

手順①：資機材準備

左の写真の中にあるものから、必要な資機材を選びます。ラーグを絞るためのスクイーザーバケツやモップリンガー、バケツには、始めから水が入っています。**作業表示板は、最初にコート外側**の出入口の横に置きます。

出入口をふさがないように置きましょう。

手順②：ラーグ（ふさいと）とハンドルをセットする

ハンドルのピンチを開きラーグの横木の溝に合わせてセットます。姿勢は写真のように片膝を着き、**ハンドルを肩にかつぐか床に寝かして行います。どちらの姿勢も、周囲のお客様に迷惑をかけないことが目的です。**

手順③：ラーグ（ふさいと）を絞る

ラーグの絞り方は、手で絞る方法やスクイーザーバケツを使用する方法など何通りかあります。**どの方法で絞っても良い**ですが、しっかり絞れているかどうかよく確認しましょう。手絞りの場合はハンドルにセットする前に絞りましょう(実際の絞り方は14・15ページを参照)。絞り終わったら**目の高さになるようにハンドルの長さを調節**します。

手順④：モップで床を拭き上げる

床を拭いていく手順は、①縁どり(角・直線)、②机の足回り、③机の下・机の周囲、④部屋の中央、⑤出入り口の順になります。それぞれの手順で、姿勢や注意するポイントなどが違ってきますので、一つずつ順に確認していきましょう。

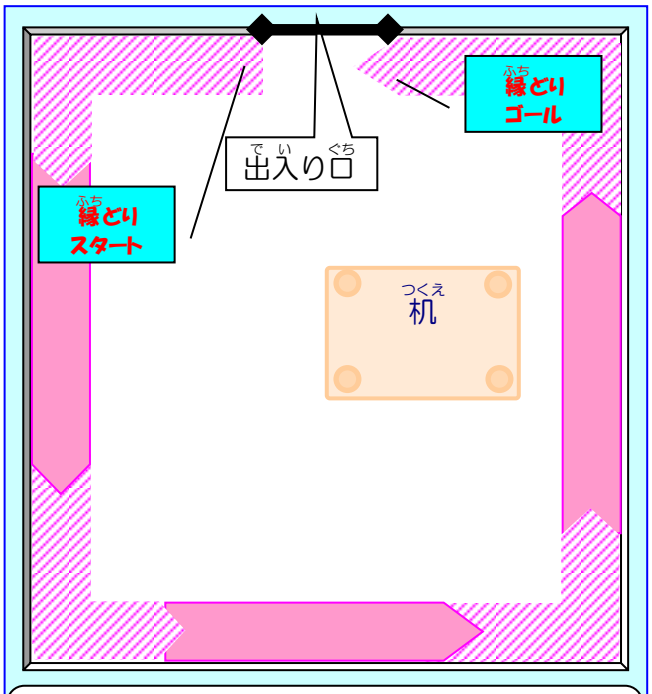
縁どり(角)

角を拭くときは**ラーグを手で持って拭きます**。これは壁にラーグをつけないためです。**進行方向の足(この場合左足)を立て、同じく進行方向の肩にハンドルをかつぎます。**反対の足(この場合右膝)を床につき、**右手でラーグの右端をしっかり押さえます**。このとき、中指でラーグの一番端が隠れるようにします。中指を、壁際をなぞるように先行させていき、角まで来たら向きを変え、壁に沿って進みます。手順では、コートに入り、すぐ右側の角から拭き始めますが、入口から角までの短い直線は、手で一気に拭いてしまいます。拭き終わりの場所は角から1mくらい進んだ辺りです。

縁どり(直線)

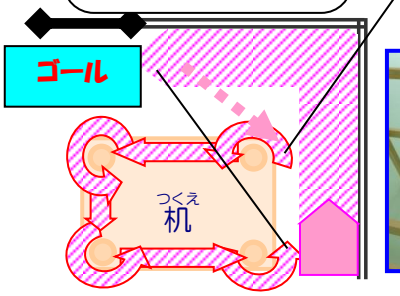
壁際を真っすぐ拭いていくときには、モップのハンドルを**右肩の前**で構え、**壁にラーグをつけないように注意**しながら押して拭いていきます。

この場合のハンドルの持ち方は、**右手が上で左手が下**です。安全のため、自在ぼうきと同様に、**ハンドルの先端には親指**をかけます。**左手は順手**で持ちます。**拭いた後を歩かないよう**に気を付けましょう。



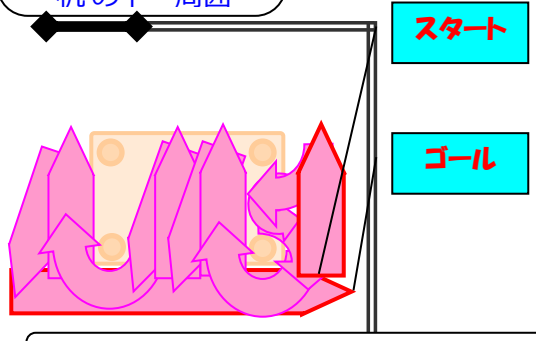
の部分は手でラーグを持って拭くところ、の部分は立ったまま拭くところです。図のように部屋を一周するようにして縁どりを行います。

机の足回り

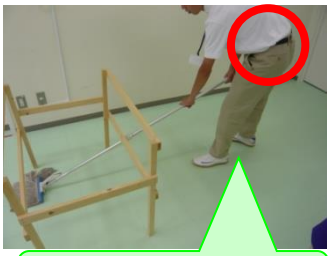


縁どりが終わったら立ち上がって机の前まで行き、**左膝をつき、右膝を立て、右肩にハンドルをかついで左手でラーグを持ち、机の足にラーグが一切触れない**ように拭いていきます。手の大きい人はラーグを全部まとめて持っても良いですが、手の小さい人はラーグを分けて持つと良いでしょう。

机の下・周囲



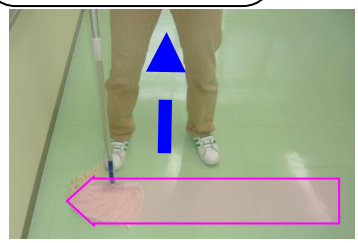
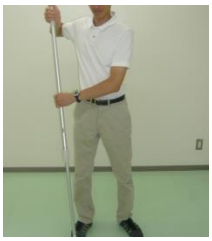
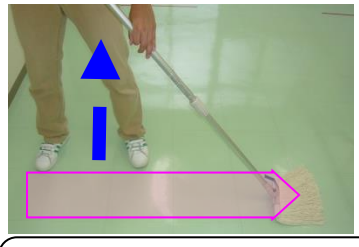
右手がポイント

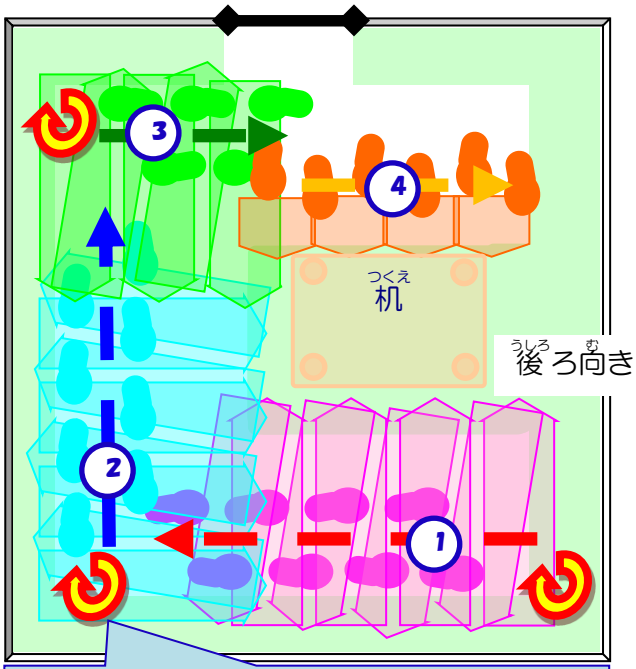


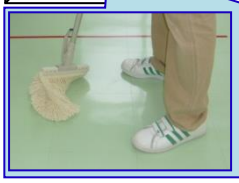
机の下は姿勢を低く

机の足回りが終わったら立ち上がり、写真のように持ち方を変え、**机にハンドルやラーグを当てないように注意**しながら、机の下を膝を曲げて拭いていきます。

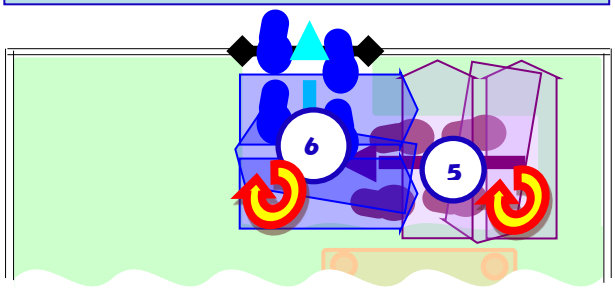
部屋の中央





ラーグは、体の向きを変えるごとに(のマーク)足元でひっくり返します。



机の下が終わったら、向きを変え、広いところを拭いていきます。モップを写真のように**横に動かしながら**、自分は①②③の順に後ろ向きで進みます。この時、横木が浮かないように注意します。壁が後ろに近付いたらまた向きを変え、同じように拭いていきます。④のところは、前のページの「机の下の拭き方」と同じように持ち方を変えて姿勢を低くして拭きます。⑤でまた向きを変え、⑥で後ろ向きに進みながら部屋の外に出ます。

出入口

最後に出入口の部分を、ラーグを手で持って拭きます。このときは左右はどちらでもかまいませんが、**右手でラーグを持つ場合は右から左へ**拭きましょう。

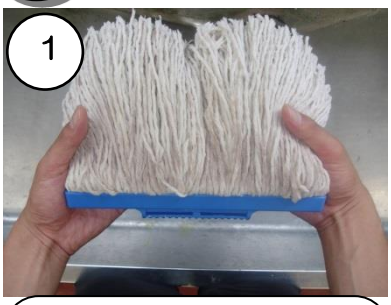
手順⑤：点検

拭き終えたら、汚れが残っていないか点検しましょう。普通に拭いただけでは落ちなかった汚れも、ラーグを足で踏んで力強くこすると落ちる場合があります。

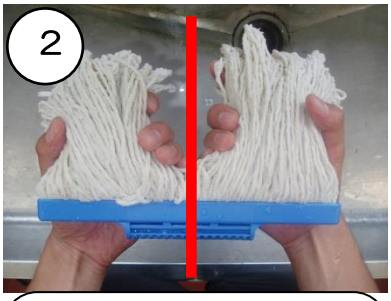
手順⑥：報告

点検が終わったら、**ラーグをハンドルから外し、ハンドル・ラーグ・作業表示板を元の位置に戻します。**片付けをした後、姿勢を正し、はっきりした声で報告をしましょう。

1 手で絞る場合

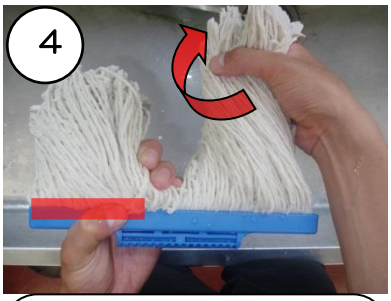


横木が自分の方にくるように構えます。

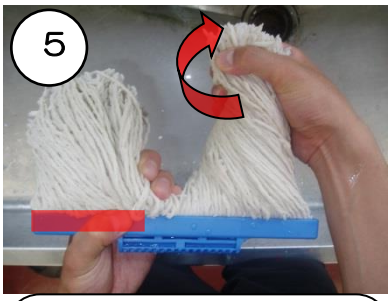


手を下から入れ、**ラーグを半分に**します。

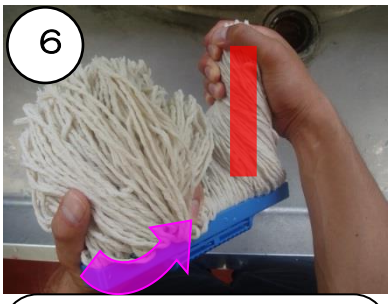
左手の親指を横木にかけます。



左手は動かさず、**右手側をねじります。**

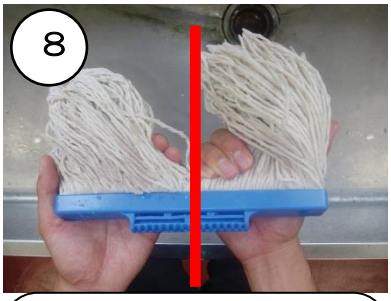


これ以上ねじれない、というところまでねじります。



右手はギュッと握ったまま、**左手を持ち上げ**ます。

しっかり絞ったら、**左右を持ち替えます。**



持ち替えて、**①～⑥を繰り返し**ます。

絞り終わったら指で**ラーグを真っすぐに**します。

モップを使う前や、使ったあとは、ラーグを洗いましょう。毛先にはほこりが付いてしまうので、よく見て汚れを落とします。洗剤を使う場合はゆすぎを丁寧にしましょう。

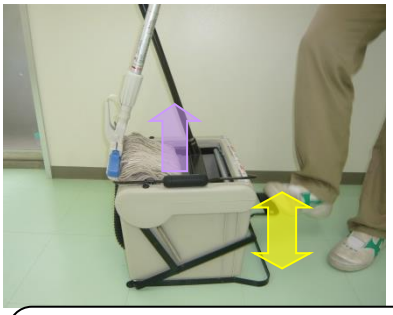
2 モップ絞り機（スクイーザー）を使う場合

スクイーザーに水を入れ、ラーグをセットしたモップを水で洗います。ラーグを持ち上げ、レバーを下げ、横木のすぐ下をローラーで挟みます。

ラーグがローラー部分から完全に出てくるまで、ラジェットを何度も上下させて絞ります。ハンドルは絞り終わってから伸ばしましょう。

3 モップ絞り機（モップリンガー）を使う場合

モップリンガーに水を入れ、ラーグをセットしたモップを水で洗います。ラーグを持ち上げ、レバーを下げ、横木のすぐ下をローラーで挟みます。



レバーのないタイプの場合。

ラーグがローラー部分から完全に出てくるまで、ペダルを何度も踏んで絞ります。ハンドルは絞り終わってから伸ばしましょう。

5　ダスタークロス

（1）手　順

手順①：資機材準備

手順②：ダスタークロスで除塵する

手順③：クロスを処理する

手順④：ゴミを自在ぼうきと文化ちりとりで取る

手順⑤：点検

手順⑥：報告

検定はＰタイルやビニールシートの床におがくずをまいて行います。

（2）ダスタークロスの約束

約束①：除塵した後しか歩かない(ゴミの上を歩かない)。

約束②：持ち上げない、バックしない、同じ向きで進む。

（3）用意するもの

ハンドル（柄）
１本

ホルダー
(ヘッド)
１つ

クロス
１枚

自在ぼうき
１本

文化ちりとり
１つ

ゴミ箱　１つ

作業表示板
１枚

ダスタークロスは、ホルダー（ヘッド※)とクロスとハンドルの三つを組み合わせたものですが、クロスの処理のあと、床に残ったゴミを取り除くには自在ぼうきと文化ちりとりが必要です。また、処理したクロスを捨てるためのゴミ箱も必要です。このように用意する資機材が多いので注意しましょう。※これまでヘッドと呼んでいましたが、清掃の現場ではホルダーと呼ばれることが多いので、本テキストでもホルダーと表記することにしました。

（4）作業の流れ

手順①：資機材準備

右の写真の中にある物から、必要な資機材を選びます。クロスには何種類かありますので普段使用しているものを選びましょう。**ダスターのセットを始める前に、必要な資機材は全て、コートの出入口にきれいに並べておきます。**

ダスタークロスのセット

片膝を着いた姿勢でクロスを床に広げ、その**真ん中にホルダーを置きます**。ピンチを開きホルダーを上下から包むようにクロスを持ち上げて、しっかりとクロスを止めます。次にホルダーにハンドルをセットします。**肩にハンドルをかつぎ**ハンドルとホルダーの**ジョイント部分がしっかり噛み合うように**セットしましょう。次に**ハンドルの長さを調節**します。真っすぐ立ってハンドルを伸ばし、**目の高さに**合わせましょう。

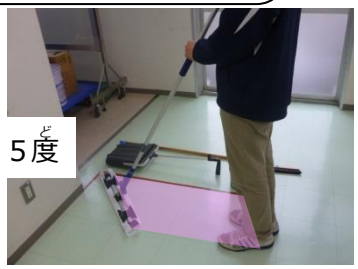
手順②：ダスタークロスで除塵する

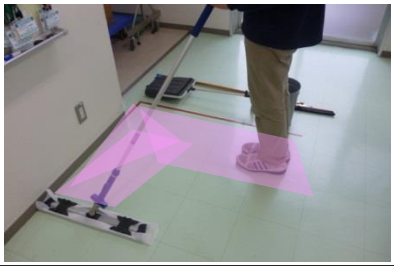
出入口

出入口の左端にダスタークロスを合わせて構えます。このとき、**右手を上にして親指でハンドルの先端を押さえ、左手は順手で柄の上から約30ｃｍのところを持ち**ます。

出入口の左端から**４分の１の弧を描くように**拭き始めます。ダスタークロスでは**除塵した後しか歩いてはいけない**ので、写真のように自分が歩く場所を除塵してからコート内に入ります。**ゴミを踏まないように**注意しましょう。

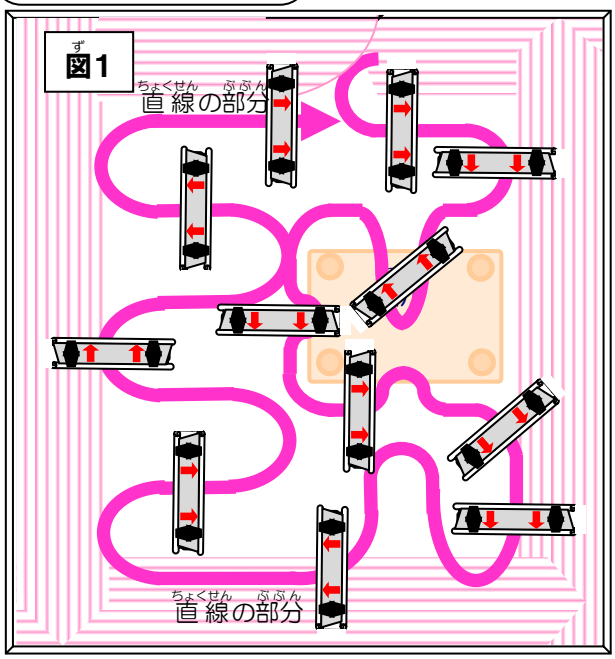
壁際

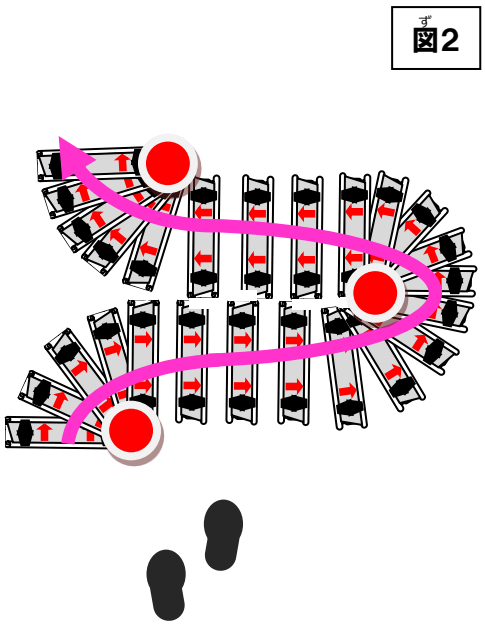




ホルダーの壁側を少し前に出して、真っすぐに押して除塵していきます。このとき壁にホルダーはぶつからないように注意します。**コートの隅はホルダーを 45度**にし、できるだけ**隅までクロスを入れます**。隅まで入ったらそのまま左へホルダーだけ動かし、自分が歩いていくスペースをつくってから自分も進んでいくようにしましょう。机の脇を通るときは机の脚にホルダーが当たらないように斜めにして進んでいきます。一周したら、ホルダーは持ち上げず、そのままの流れで今度はコートの内側の除塵をします。

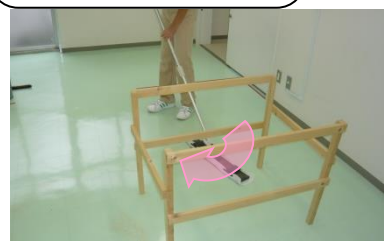
部屋の真ん中





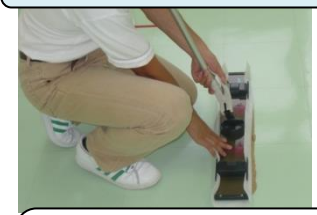
壁際を一周したら、部屋の真ん中の除塵をします。部屋の真ん中の広い部分は、ホルダーを図２のように回転させながら進んでいきます。自分は真っすぐに歩いていき、ホルダーは自分の前を通過するときは縦の状態に、自分の左右にきたときには ● の部分を支点にし、拭き跡が少し重なるようにして半回転させます。図１の直線の部分は、壁際と同じように、ハンドルを胸の前で構えて真っすぐ押して除塵していきます。

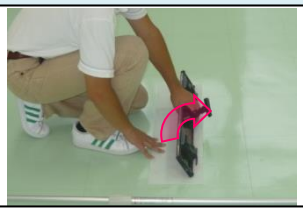
机の下



ホルダーやハンドルが机の脚などに当たらないように、机の下はあまり奥まで入れないようにします。机の脚元にゴミがある場合には無理して取ろうとはせず、手順④のところで、自在ぼうきと文化ちりとりで取り除きましょう。

手順③：クロスを処理する

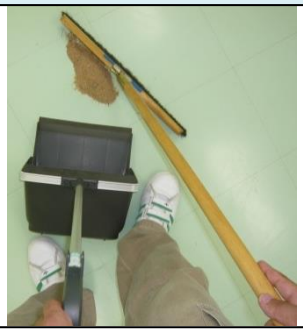




出入口の前まで除塵したらクロスを処理します。まず、**片膝を着いてハンドルを肩にかつぎ、ホルダーを外します**。外したハンドルは自分の右側に静かに置きます。次にホルダーをクロスからはがします。**クロスが持ち上がらないようにしっかり押さえ**ながら静かにホルダーを持ち上げ、ハンドルと並べて置きます。クロスを図の向きに裏返し、**ゴミで汚れた面が内側になるように折り込み**、ゴミをまき散らさないようにします。

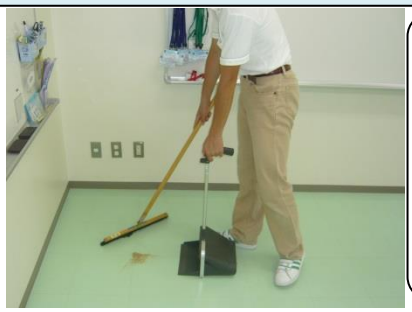
畳んだクロスとハンドル・ホルダーを持って、出入口から外に出て、**まずクロスをゴミ箱に入れ**、ハンドルとホルダーは元の位置に置きましょう。

手順④：ゴミを自在ぼうきと文化ちりとりで取る



クロスを処理した場所には、たくさんのゴミが残っていますので、自在ぼうきと文化ちりとりを用意します。自在ぼうきの持ち方は、右手でハンドルの真ん中辺りを持ち、ハンドルの先端は脇に抱えます。文化ちりとりは左手に持ちましょう。ちりとりの後方に立ち、ほうきの毛先の前半分をちりとりの中に入れるようにしてゴミを取ります。毛先全体をちりとりにぶつけるとゴミが両脇からこぼれてしまうので注意しましょう。

手順⑤：点検

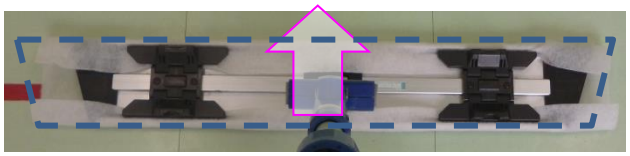


クロスを処理した場所のゴミを取り終えたら、クロスで取りにくい机の下やコートの隅などを注意深く**点検**し、残っているゴミを取り除きましょう。その際は、全てのゴミを１か所に集めるのではなく、場所ごとに集めて取り除きます。

手順⑥：報告

全ての工程が終了したら、**資機材を元の場所に戻しましょう**。出入口のところに立って姿勢を正し、はっきりした声で報告をしましょう。

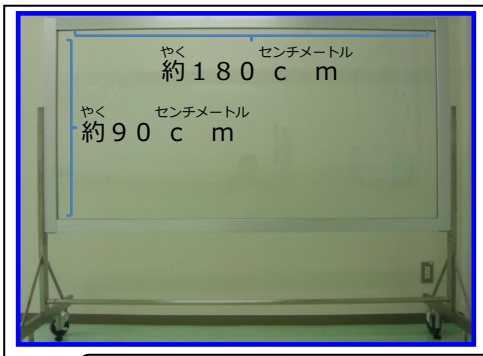
参考：ホルダーの前後について



最近はホルダーの形状が左のように台形になってきています。**幅の広い方が前になる**ように作業しましょう。

6 ウインドウスクイージー

（1）手順



左の写真のガラスを使用して練習を行います。このガラスはビルクリーニング技能士の国家試験で使用するものと同じものです。スクイージーの引き方には「縦引き」から始める方法と「横引き」から始める方法がありますが、ここでは基本となる「縦引き」からの方法で練習を進めていきましょう。

- **手順①：資機材準備**
- **手順②：ゆるく絞ったタオルでガラス表面の汚れを拭く**
- **手順③：スクイージーで汚水をかき取る**
- **手順④：わく拭き（水拭き）**
- **手順⑤：わく拭き（から拭き）**
- **手順⑥：面取り（から拭き）**
- **手順⑦：点検**
- **手順⑧：床拭き(水拭き)**
- **手順⑨：スクイージーを拭き取る**
- **手順⑩：報告**

（2）スクイージーでの約束

- **約束①：スクイージーで拭いた後は触らない。**
- **約束②：スクイージーは１回使うごとに必ず刃についた汚水を拭き取る。**

（3）用意するもの

システムバケツ　１ｾｯﾄ

白タオル　２枚

ｳｨﾝﾄﾞｳｽｸｲｰｼﾞｰ　1本

（4）作業の流れ

手順①：資機材準備

写真１

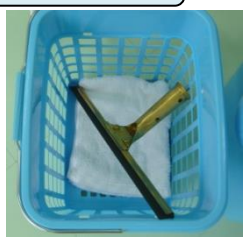


写真２

写真３

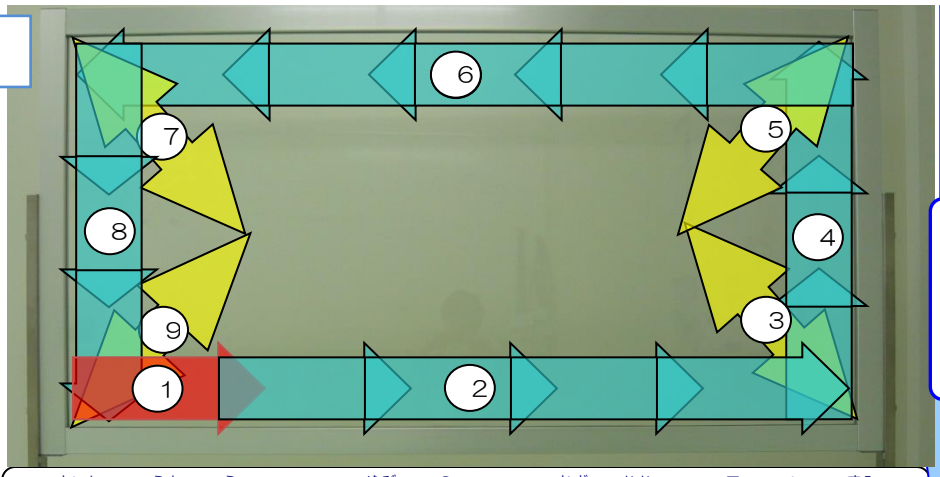
写真１ の中から、必要な資機材を選びます。

システムバケツの外側のバケツに**水を３分の１**入れ、八つ折りにした白タオルを１枚浸しておきます。内側のバケツには、八つ折りにした白タオルを１枚入れ、**スクイージーの刃が上向きになるように**斜めに入れます。写真２ の位置まで運んだら、写真３ のように、スクイージーをバケツに掛けます。

作業は、**バケツを置いた場所が左側になる面**を使って行います。

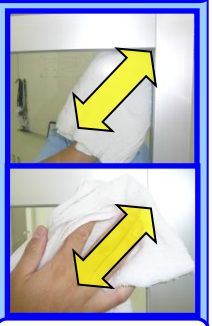
手順②：ゆるく絞ったタオルでガラス表面の汚れを拭く

縁どり



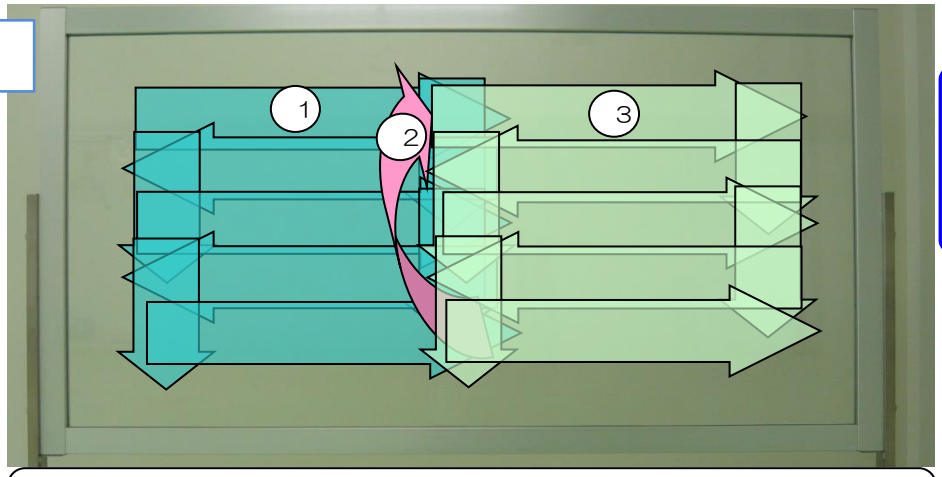
窓の右上に水性ペンで汚れを付けてあるので拭き取ります。

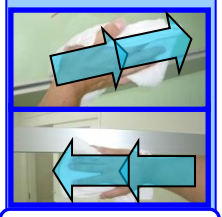
最初に縁を拭きます。指を伸ばして**角は斜めに手を入れ隅まで水が入るように**します。直線は上下の辺は５回、左右の辺は３回程度、手を前後に動かしながら拭いていきます。



隅は中指が角までしっかり入るように注意します。

真ん中





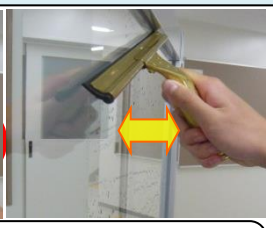
縁の上下を拭くときは手を横に向けます。

縁どりが終わったら**タオルを折り返して**、次に真ん中を拭きます。テーブル拭きのときと同じように、横→縦→横→縦と**真っすぐに隙間なく**拭いていきます。②のところでタオルをひっくり返す必要はありません。

窓を拭くときは、小指側でもタオルを挟むとばらけません。

手順③：スクイージーで汚水をかき取る

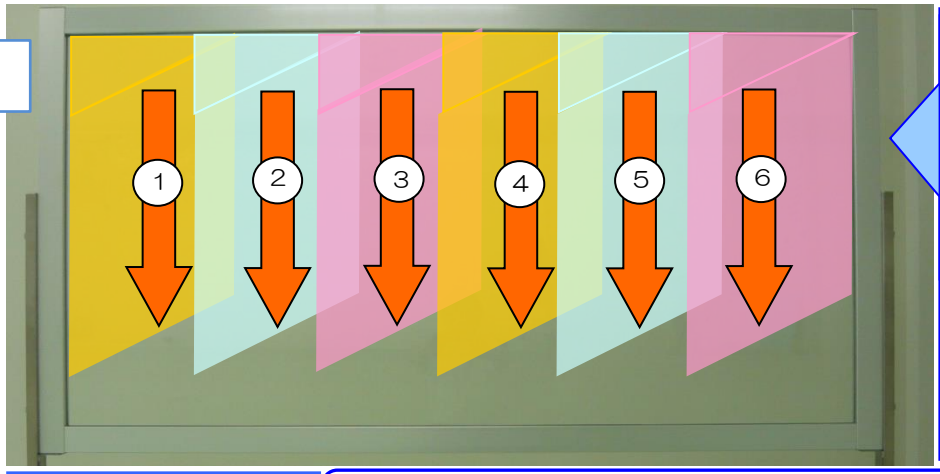
グリップを両脇からしっかり握るように持ちましょう。



握った手と窓ガラスの間が指一本分くらい離れるようにします。右の写真のように離れすぎるとうまく汚水をかき取れません。

タオルはよくゆすいで、固く絞って**左手**に持ちます。

縦引き

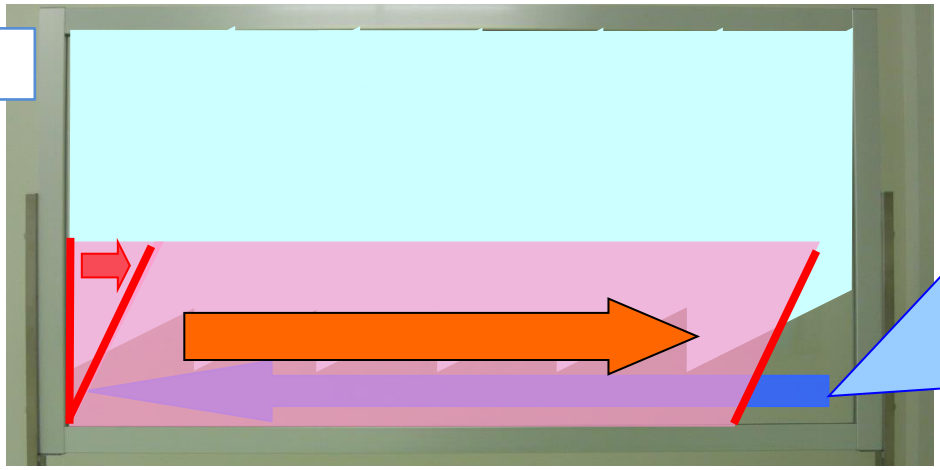


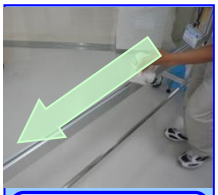
膝を十分に使って引きましょう。

まず、スクイージーの刃を下から上へ拭きます。次にガラスと窓枠の境目のところに刃を当て、**左側を少し下げたら**そのままの角度で下へ引きます。上の図のように、**ガラスの下から１５ｃｍくらいで斜めのまま止めます。**

スクイージーの刃は**一度引くごとに毎回必ずタオルで拭き取り**ます。刃は汚水が床に落ちないように、**下から上へ向かって全体を拭きます。**この後行う横引きや扇引きのときにも忘れずにやりましょう。

横引き



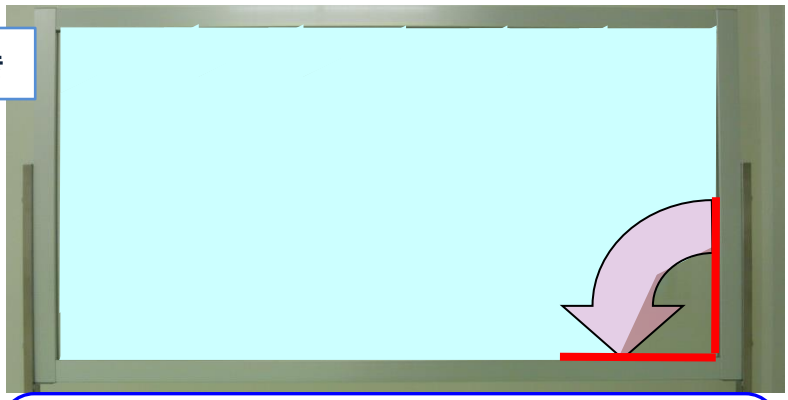


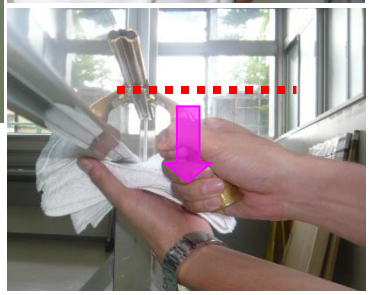
まずガラスの下の方にたまった汚水をタオルで拭き取ります。

縦引きと同じように、まずガラスの左端にしっかりスクイージーの刃を当ててから、**刃の上を進行方向へ斜めにします。タオルをスクイージーの真下に当て、汚水を床に落とさない**ようにしましょう。

横引きは足の運びが重要です。最初の構えから**右足・左足・右足・左足の順に足を動かして右へ移動していきます。**このとき、**足を先行**させ、スクイージーは常に体の中心線より左側にあるように意識しましょう。**スクイージーが途中で止まったり浮いたりしないように注意し、一気に引きましょう。**

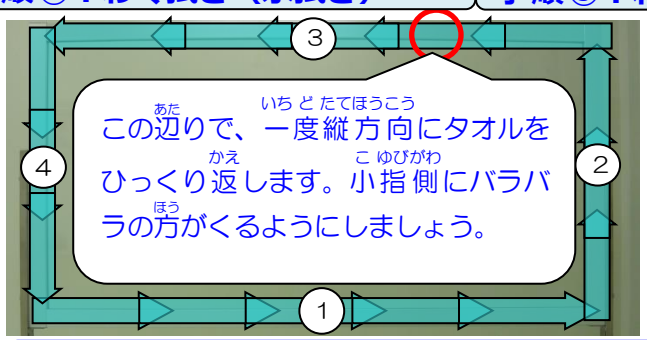
扇引き



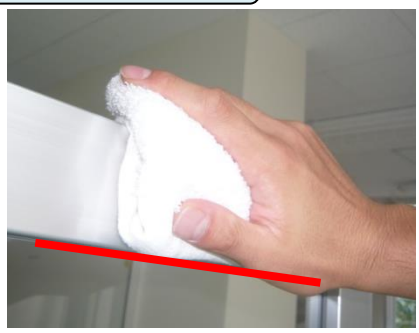


残った右下の部分を、スクイージーを扇形に動かして汚水をかき取ります。**左肩をガラスに近付け、左膝を着き、姿勢を低くします。**ガラスの右端にスクイージーを当て、支点がずれないように注意しながら一気に動かします。スクイージーが**途中で止まったり浮いたりしないように注意**しましょう。このとき**タオルは窓枠の下**に当てておきます。**最後まで手首をもち上げないように**窓枠まで引き下げたら、グリップを持ち上げて汚水をしっかりかき取りましょう。

手順④：わく拭き（水拭き）

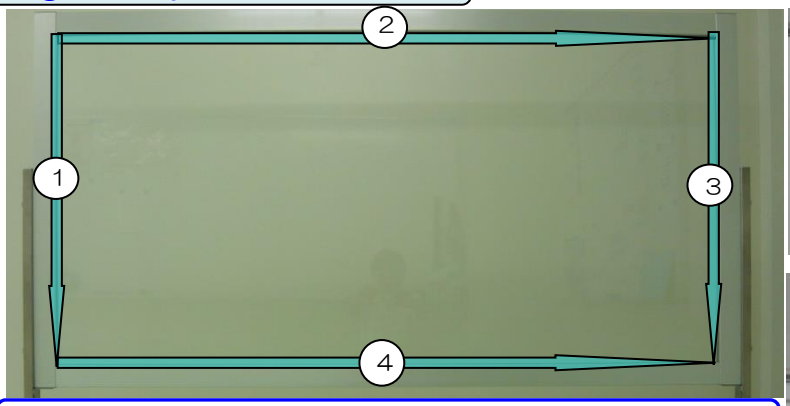


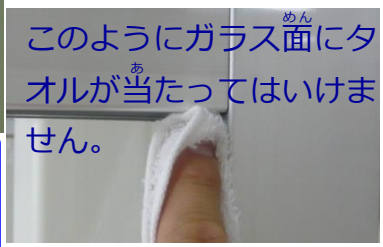
手順⑤：わく拭き（から拭き）



タオルをゆすいで固く絞り、窓枠を拭きます。**タオルは１６折**の大きさにし、**バラバラの方が小指側になるように**して持ちます。**ガラス面にタオルがつかない**ように注意します。**この後、乾いたタオルで同じことを行います。**

手順⑥：面取り（から拭き）

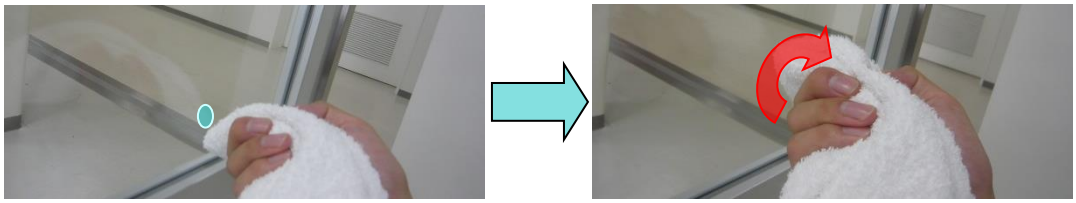




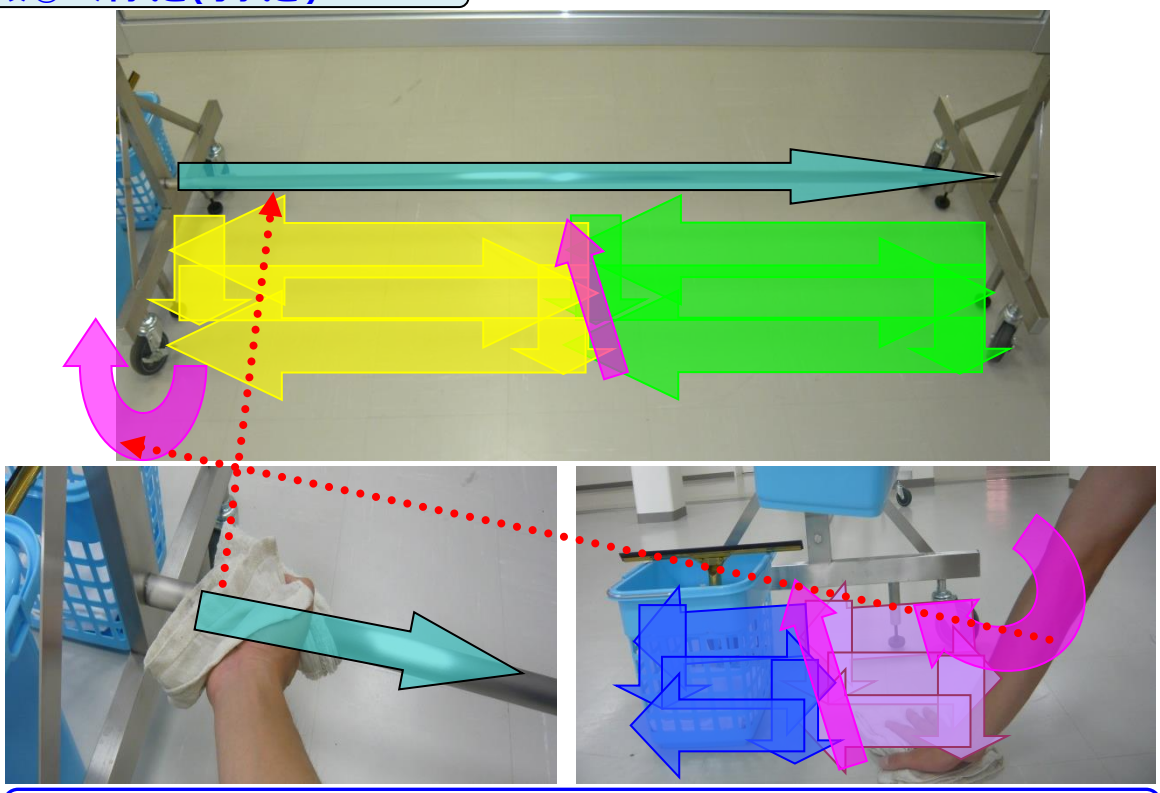
次に、乾いたタオルで縁を拭き取ります**(面取り)**。**タオルは二つ折**にし、**人差し指を中に入れ**、**ガラス面にタオルが触れない**ように注意しながら、図の順番に拭いていきます。④の部分は水がたくさんたまるので、**ゆっくりタオルを動かす、同じ動作を数回行うなどして、確実に拭き取ります。**①～④まで、**拭くたびにタオルの濡れていない部分を出して**拭きます。

手順⑦：点検

面取りが終わったら、引き続き乾いたタオルに人差し指を入れた状態で、ガラス面に水滴が残っていないか**点検**します。水滴を見付けたら、**指を下から上に向かって引っかくように動かして水滴を飛ばすように処理**します。



手順⑧：床拭き(水拭き)



次に、濡れたタオルをゆすいで固く絞り、**まずガラスの下のバー**を左から右へ拭き、そのまま床にタオルを下ろして、**床を右から左へ**拭いていきます。ガラスの下の部分を拭き上げたら、そのままの流れで**バケツの下**を拭いていきます。バケツは一つずつ持ち上げて拭いていきましょう。

手順⑨：スクイージーを拭き取る

次に、乾いたタオルでスクイージーを拭き上げます。**ゴム刃**の部分を拭き、**グリップ**を拭き、**グリップの中**の水滴も拭き取ります。**拭いた後は、ゴム刃は触らない**ようにしましょう。拭き終わったら乾いたタオルを畳んでバケツに元通りに入れ、その上に**スクイージーをゴム刃が上になるように斜めに入れます。**

手順⑩：報告

全ての工程が終了したら、**資機材を資機材置き場に戻します。**姿勢を正し、はっきりした声で報告をしましょう。

参考：左利きの場合

左利きの方で、左手でスクイージーを持って作業する場合は、バケツを置く位置や拭き始めの場所など、全て右利きの場合と逆にして作業を行うようにしましょう。

7　ポリッシャー

（1）手順

手順①：資機材準備	手順②：ポリッシャーのセット	
手順③：ポリッシャーをかける	手順④：ポリッシャーの片付け	
手順⑤：点検	手順⑥：報告	

検定を行うコートは、モップやダスタークロスの設定と同じです。

（2）ポリッシャーでの約束

約束①：ポリッシャーをかけた後は踏まない。

約束②：コードを蹴らない。踏まない。またがない。

（3）用意するもの

ポリッシャー　1台

パッド台　1枚

飛散防止ｶﾊﾞｰ　1枚

白タオル　2枚

作業表示板　1枚

パッド(赤)　1枚

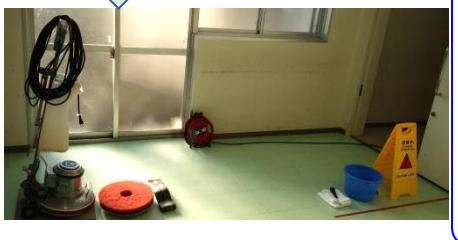
バケツ　1つ

ﾏｲﾅｽﾄﾞﾗｲﾊﾞｰ　1本

本来は洗剤を出しながらポリッシャーをかけ、その後吸水バキューム等で水分を取りますが、検定では、タンクが空の状態で行います。ポリッシャーの操作のみを審査しますので、準備する資機材もポリッシャーの操作に関する８種類だけです。パッドには目の粗さの違いによって何種類かありますが、検定では**赤いパッド**を使用します。**ポリッシャーを移動するときは押して移動**しましょう。

（4）作業の流れ

手順①：資機材準備



左の写真の中にある物から、必要な８種類の資機材を用意したら、右の写真のように並べます。**ドライバーは転がらないよう、八つ折りにした白タオルの上に置きます。**

手順②：ポリッシャーのセット

ポリッシャーを少し前に出し、コードを束のまま床に下ろします。このとき、**プラグが下になるように**置きます。

パッドとパッド台をセットします。**パッドとパッド台がきれいに重なるように**、姿勢を良くして真上から見ましょう。

次にスタンドを立てて、ポリッシャーを寝かせます。ポリッシャーを寝かしたり立てたりするときには、**タイヤに足をかけて**ポリッシャーを固定して行います。

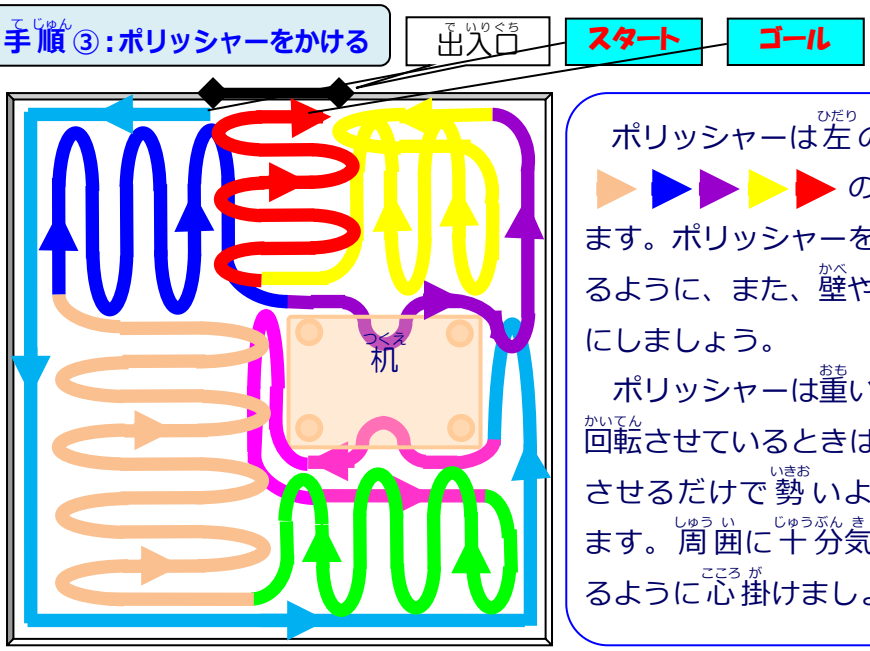
スタンドを立てたり畳んだりするときは、両脇についているボタンをしっかり押して操作します。

次にコンセントを入れ、ポリッシャーが動くか確認**(起動確認)**をします。コンセントの抜き差しは、**コードではなくプラグを持って行いましょう。**安全装置を押しながら右レバーを握り、モーターを回転させ、急いで回転状況を**目で確認**します。

次にパッド台をセットします。パッド台の真横を両手で持ち、パッド台と本体の爪の位置が噛み合うようにはめ込みます。きちんとはまったら、少し右側へ動かしてから、一気に左側へ強く回転させます。手でゆすって装着具合を確認しましょう。

次にスタンドを畳みポリッシャーを起こし、飛散防止カバーを**床から指一本分くらい隙間ができるように**セットします。真ん中から付け始め、横にぴんと張りながら付けていきましょう。

手順③：ポリッシャーをかける



ポリッシャーは左の図ように、▶▶▶▶▶▶▶▶の順に移動させていきます。ポリッシャーをかけた跡が少し重なるように、また、壁や机にはぶつけないようにしましょう。

ポリッシャーは重い機械ですが、パッドを回転させているときは、ハンドルを少し上下させるだけで勢いよく左右に動いてしまいます。周囲に十分気を配り、安全に作業するように心掛けましょう。

スタンバイ

この作業中、必ずどちらかの手でポリッシャーのハンドルを持っていること。

コードを３巻ほどとり、ポリッシャーをスタート位置まで移動したら、ペダルを踏んでハンドルを下げます。ハンドルは２段階に下げられるようになっています。**一番下まで下げましょう。**

タンクの栓を開けます。タンクの栓の開け閉めは、**必ずタイヤが地面についている状態で行います。**

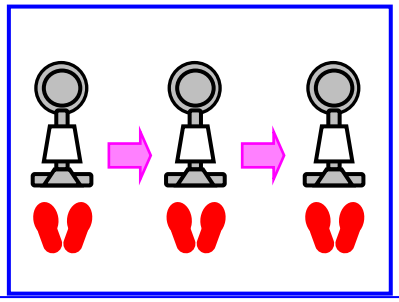
次にタイヤを上げます。**ハンドルをしっかり持つか**、足をハンドルの下に入れるようにしないと、タイヤを上げた時にポリッシャーが倒れてしまうので注意しましょう。

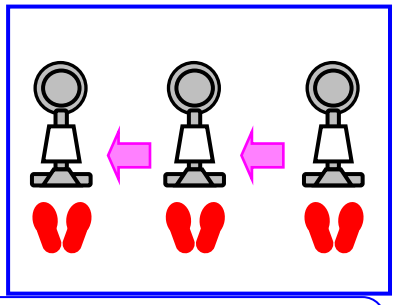
これで準備は完了です。**左手にコードを持ちながら**、左右のハンドルを**順手でしっかり握って**正しく構えます。

起動・静止

ポリッシャーの操作の安定感を確認するため、ポリッシャーを起動させたまま、スタート位置で２０秒間静止させます。このとき、Ｐタイル２枚分以上左右に振れてしまったら、０から数え直します。自分の体の正面の位置でポリッシャーを保てるよう、バランスを取りましょう。

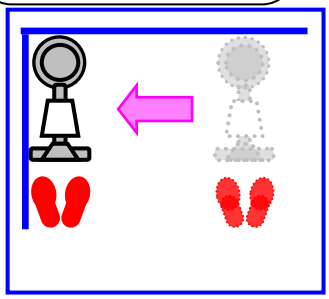
横移動

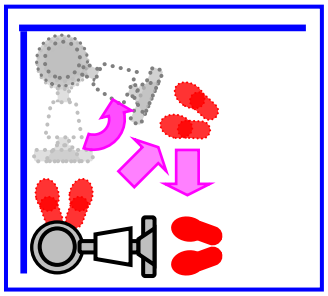




ポリッシャーを横移動させるときは、**常に体の正面の位置にポリッシャーがあるように**意識して少しずつ移動していきましょう。ハンドルを押し下げると、ポリッシャーは左に移動します。ハンドルを持ち上げると、ポリッシャーは右に移動します。

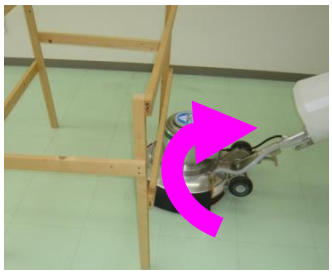
部屋の隅





部屋の隅で操作する際にも、常に自分の正面の位置にポリッシャーがあるように意識します。隅ぎりぎりまで移動したら、**ポリッシャーを静止させたままにして、自分が右へ**移動しながら方向転換をします。

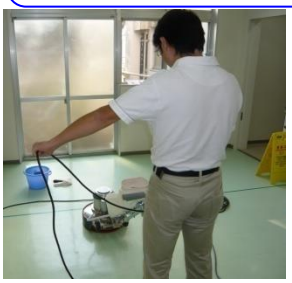
机のまわり



モップやダスタークロスと同じように、**机の脚にポリッシャーをぶつけないように**注意しましょう。机の下はポリッシャーを少し入れる程度で終わらせて構いません。

コードさばき

危険防止のため、**コードは踏んだり、蹴ったり、またいだりしない**ようにします。そのためには、足元のコードを左手で払ったり、余分なコードを巻き取ったりしながら作業をするなどの、操作中のコードさばきが大切です。



出入口

モップと同じように、バックしながら自分の体を出入口から出します。ポリッシャーはコート内に残したまま起動レバーを放し、ポリッシャーの回転を止めます。**車輪を下ろして、タンクの栓を閉じ**、ペダルを踏んでハンドルを持ち上げます。車輪を使ってコートの外にポリッシャーを移動させ、マットの上に立てたら、**すぐにコンセントを抜きましょう**。この後ポリッシャーの片付けを行います。

手順④：ポリッシャーの片付け

スタンドを立ててポリッシャーを寝かします。**飛散防止カバーをはずし、黒い面が外側になるように畳み、パッドの上部に付け**ます。**パッドを下からめくり、飛散防止カバーをくるむようにして**パッド台から外し、汚水が床に落ちないように、１枚目の白タオルで押さえながらバケツに入れます。

パッド台の穴に**マイナスドライバー**を入れ、パッド台を外します。このときパッド台が手の上に落ちたりしないように、しっかりと片手で押さえておきます。パッド台を外したら、白タオルでポリッシャーの内側を軽く拭きます。ポリッシャーを立てて、スタンドを下ろし、コードを白タオルで拭きながら巻き取ります。

手順⑤：点検

出入口からポリッシャーの片付けをした所までの**床を、２枚目の白タオルで拭き取ったら、使用した全ての資機材を、資機材置場に戻します。**

手順⑥：報告

全ての工程が終了したら、出入口のところに立って姿勢を正し、はっきりした声で報告をしましょう。

ポリッシャーの各部位の名称と機能

ハンドル

右レバー

握るとパッド台が回転します。

安全装置

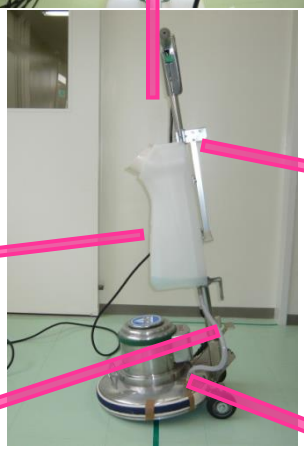
このボタンを押しながら右レバーを握らないとパッド台は回転しません。

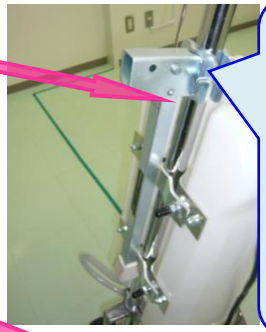
左レバー

握ると、タンク内の洗剤がパッド台に流れ出ます。

タンク

洗剤を水で薄めたものを入れておきます。





スタンド

ポリッシャーを寝かす時に使用します。

ペダル

ハンドルを倒す時に踏みます。

タンクの栓

縦にすると、開いて洗剤を出せる状態になります。

8 掃除機

（1）手順

手順①：資機材準備

手順②：起動確認

手順③：前進作業で掃除機を隙間なくかける

手順④：点検

手順⑤：片付け

手順⑥：報告

検定はタイルカーペットの床にシュレッダーくずをまいて行います。

（2）掃除機の約束

約束①：掃除機をかけた後しか歩かない(前進作業)。

約束②：ホースで掃除機本体を引っ張らない。

（3）用意するもの

掃除機(ポット型)
1台

作業表示板
1枚

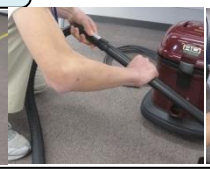
白タオル
1枚

(参考)
アップライト型
掃除機

掃除機にはポット型とアップライト型の２種類があります。アップライト型はカーペット用の掃除機で、本来はアップライト型を使用するところですが、ここではより一般的な**ポット型を使用**します。アップライト型を使用する場合でも作業を進める動線は同じです。

（4）作業の流れ

手順①：資機材準備



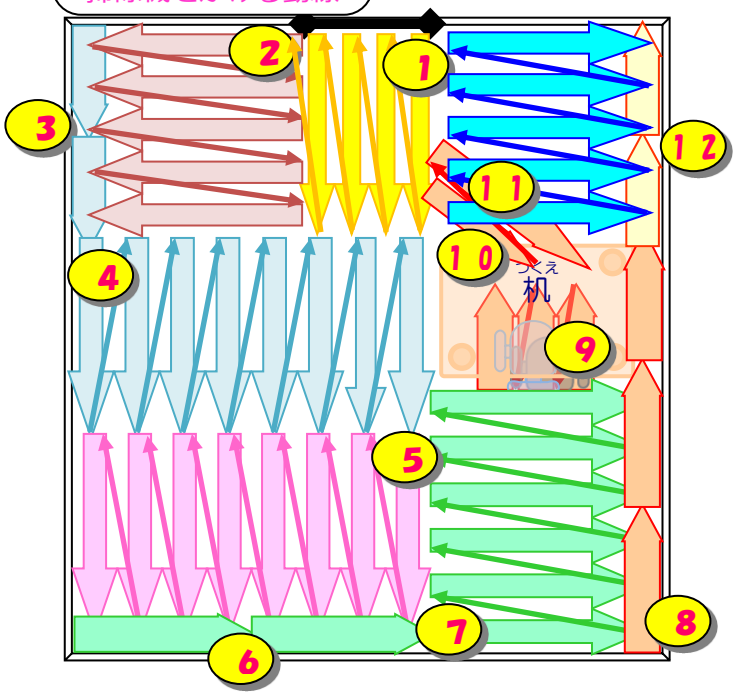
初めに作業表示板を出入口付近に立て、次に掃除機のホース、ウォンド、ノズルを組み立て掃除機に差し込みます。コードは移動しやすいようにまとめます。

手順②：起動確認

白タオルを持って、掃除機を移動させます。掃除機を移動させる際は**持ち上げて移動**させるようにしましょう。**白タオルは掃除機の横**に置いておきます。**プラグが下**になるようにコードを床に下ろします。ウォンドを下ろし、**ノズルが上に向くように**置きます。プラグを差し込む時はコードを持たずにプラグをしっかり持って確実に差し込みましょう。次に電源スイッチをオンにし、**吸い込み口に手を当て、正常に作動しているか確認(起動確認)をしましょう。**

手順③：前進作業で掃除機を隙間なくかける

掃除機をかける動線



掃除機をかけていく際の動線は左の図の通りです。**前進作業で隙間のないように**作業を進めていきます。

●で示したブロックとブロックの境目の部分は、**少し重なる**ように掃除機をかけていきましょう。

また、各ブロックの最後の部分では、次のブロックの最初の部分にスムーズにつながるように意識して作業を行いましょう。

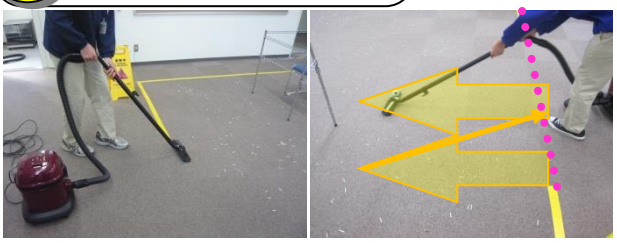
詳しくは、この後、ブロックごとに説明します。

掃除機をかける姿勢

掃除機をかけるときの基本の姿勢は、**左足が前、右手が上**で、左手は順手で持ち、ホースを床から浮かさないように構えます。**床とウォンドの角度が４５度**になるように意識して操作しましょう。

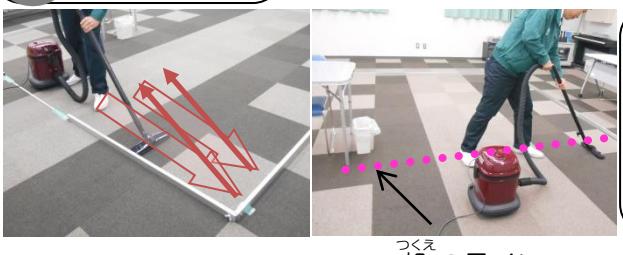
ホースで掃除機本体を引っ張ったり、**コードを踏んだり、またいだりしない**ように注意しましょう。

1 のブロック（出入口）



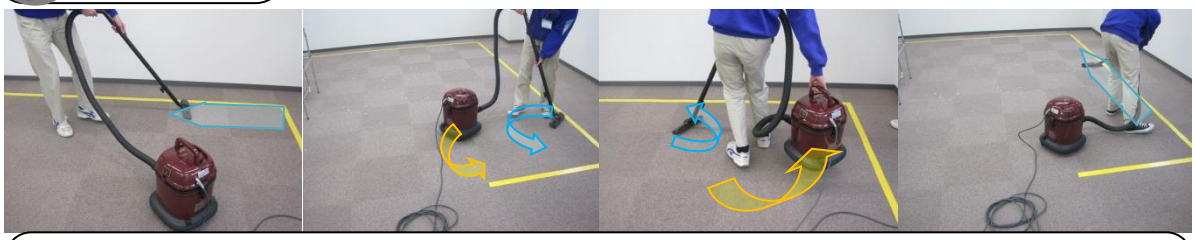
出入口の左端から掃除機をかけ始めます。**吸塵跡が少し重なるように右側へ少しずつ移動**していきます。このとき、**吸塵していない所は踏まないようにします。**

2 のブロック



出入口の右側の壁際から机のラインくらいまで左に掃除機をかけていきます。**壁際は壁から離れ過ぎないようにゆっくり**掃除機を動かしましょう。

3 のブロック



2 で壁に対して垂直に掃除機を当てた後、今度は壁に沿って吸塵していきます。

これは 6 8 12 も同様です。部屋のすみから壁に沿って掃除機を後方に動かし、途中で向きを変えて今度は前方に出すようにして壁際を吸塵します。向きを変えるときに、**吸塵跡が少し重なるように注意しましょう**。また、ホースで引っ張らないようにするために、本体の位置を移動させましょう。

4 のブロック

3 からの流れで、そのまま 4 のブロックに入っていきます。掃除機本体の位置を移動させながら、**吸塵跡が重なるように**机の脇まで吸塵していきます。この時、**ゴミ箱は移動**させて、丁寧に吸塵し、すぐに元の位置に戻しましょう。

5 のブロック

4 のブロックの最後の位置からそのまま前方の壁際まで吸塵していき、少しずつ右側へ移動していきます。右の壁際も丁寧に吸塵します。

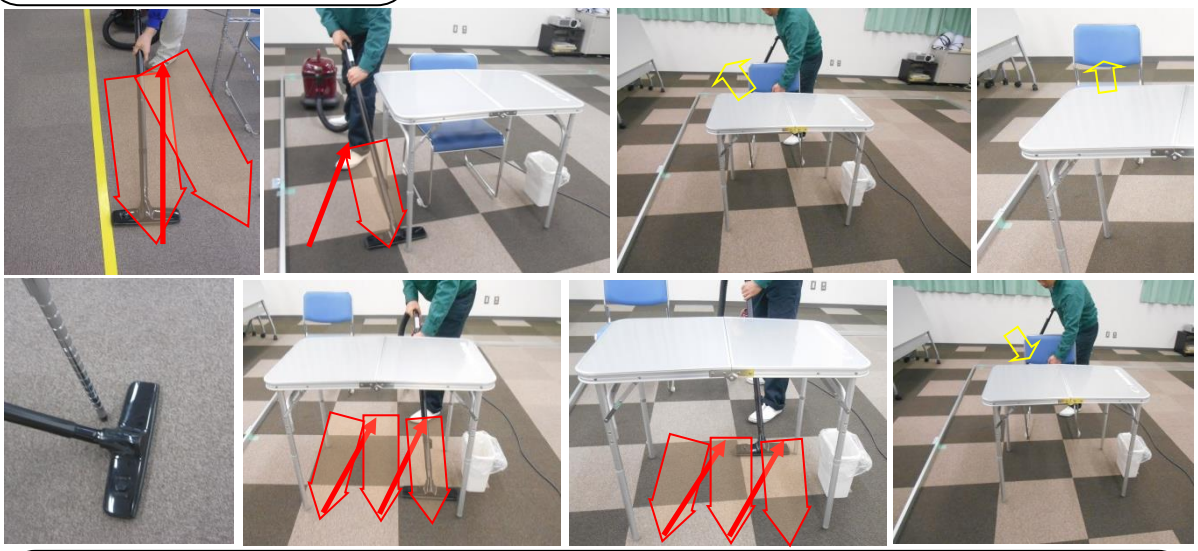
6 のブロック

3 のブロックと同様の手順で、5 のブロックで壁に垂直に当てていた掃除機を、今度は並行の向きにして吸塵していきます。体の向きを変えるときに、吸い込み跡が少し重なるように注意しましょう。

7 8 のブロック

6からの流れで、壁際に沿って進みます。机のそばまで吸塵したら、7で垂直に掃除機を当てていた壁際をもう一度吸塵します。8

9 のブロック(机の周辺)



8からの流れで、机の横を壁際から吸塵していきます。壁と机の間の吸塵が終わったら、右手で椅子を移動させます。**このとき、コードの上に置かないように**気を付けます。**机の足に掃除機をぶつけない**ように注意しながら丁寧に吸塵していきます。机の下の吸塵が終わったら、左手で椅子を元の位置に戻します。

10 のブロック(机の反対側)

椅子を戻したら掃除機本体を持って机の反対側へ回ります。吸塵していない所を踏まないようにしながら、斜めに机の下を吸塵していきます。

11 12 のブロック

机の下の吸塵が終わったら、11のブロックの吸塵に入ります。壁際まで吸塵したら、垂直に掃除機を当てていた壁際を、壁に沿って吸塵します。12

手順④：点検

吸塵作業が終わったら、スイッチをオフにし、ウォンドを本体に差し込み、スタートラインまで掃除機を運びます。プラグを抜き、コードを本体の近くにたぐり寄せてから点検をしにコート内に戻ります。**点検をして取り残しがあったら手で取り除きます。**

手順⑤：片付け

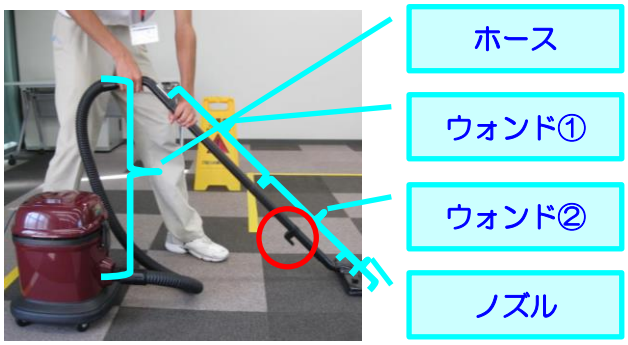
点検を終えたら、片付けをします。コードを白タオルで拭きながら巻いていきます。次にノズル、ホース、ウォンド、本体の順に拭いていきます。**掃除機、白タオルを元の場所に戻し、ノズル、ホース、ウォンドは解体して元の場所に戻します。最後に作業表示板を片付けて**終了です。

手順⑥：報告

全ての工程が終了したら、スタートラインに立って姿勢を正し、はっきりした声で報告をしましょう。

参考：ノズル、ホース、ウォンドの正しい組み立て方

ウォンド①と②の順番に注意しましょう。ノズルに近い方にウォンド②を付けないと、掃除機に差し込むことができなくなってしまいます。



9－1 トイレ（洗面台）

（1）手順

- 手順①：資機材準備
- 手順②：鏡の清掃
- 手順③：金属部分・その他の部分の清掃
- 手順④：点検
- 手順⑤：報告

トイレ清掃の導入となる作業です。
手袋での作業に慣れましょう。

（2）洗面台清掃での約束

- 約束①：拭いた後は触らない。
- 約束②：ライトクリーニングたわしの面に注意する。

（3）用意するもの

システムバケツ　1つ

青いゴム手袋　1双

白タオル　2枚

ﾗｲﾄｸﾘｰﾆﾝｸﾞたわし1つ

中性洗剤　1本

ﾏｲｸﾛｸﾛｽ　1枚

作業表示板　1枚

トイレ清掃では衛生面に気を付けることが大切です。便器清掃では必ずゴム手袋を着用しますが、洗面台でも洗剤を使用するので、**ゴム手袋を着用する**ようにしましょう。このとき、便器用の手袋とは分ける必要があるので、**洗面台清掃では青色系の手袋**をするようにします。

トイレ清掃全体を行う場合、一つのシステムバケツに便器用の資機材と洗面台用の資機材を一緒に入れて持ち運ぶことになりますが、間仕切りがついているので、便器用の資機材と洗面台用の資機材は分けて入れるようにしましょう。

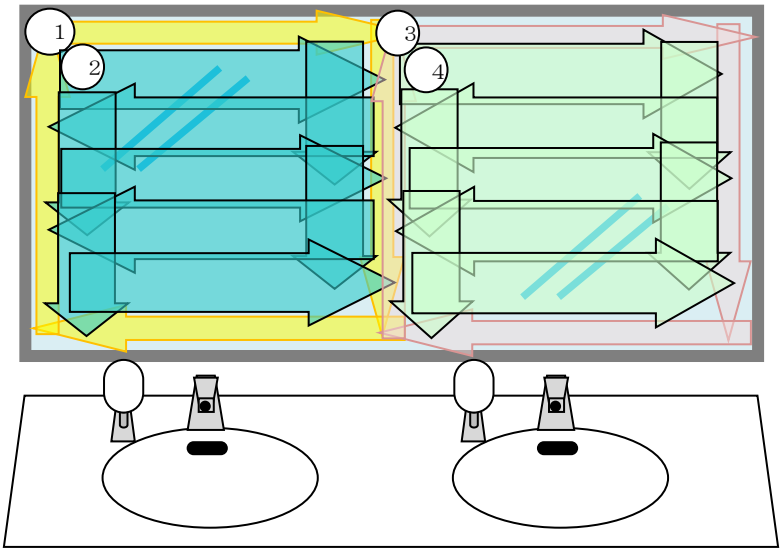
お客様に注意を促すために、必ず**作業表示板をトイレの入口に立てましょう。**

（4）作業の流れ

手順①：資機材準備

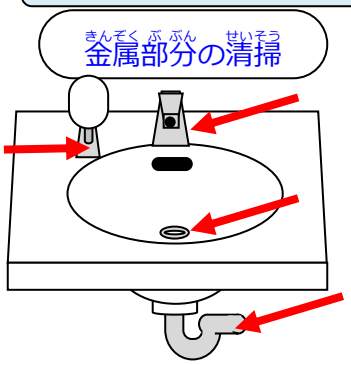
システムバケツに必要な資機材を使いやすいように入れます。ゴム手袋は、汚水が手袋を伝って袖口から入ってこないように、**少し折り返して使用**します。

手順②：鏡の清掃

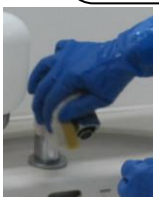


初めに**マイクロクロスをゆすぎ、固く絞ります**。四つ折りにし、バラバラの方を親指ではさんで持ち、テーブル拭きをするときと同じ拭き方で鏡を拭いていきます。鏡の下の方で拭きにくい部分は、手を横に向けるようにしてすみずみまでしっかり拭くようにしましょう。鏡の上部は手が届かなければ拭かなくても良いですが、ハンドルを付けて拭く方法もあります。**拭き終わったら角度を変えて見て、汚れが残っていないか点検**しましょう。

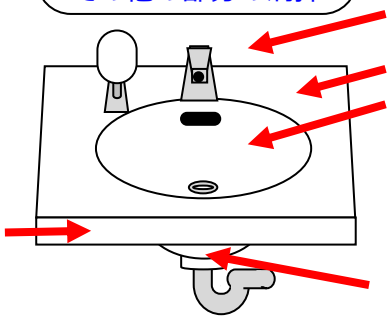
手順③：金属部分・その他の部分の清掃



次に**金属の部分の汚れをライトクリーニングたわしの黄色いスポンジ面を使って**落としていきます。ライトクリーニングたわしを水で湿らせ、中性洗剤を付けます。スプレーが飛び散らないように、**洗面台の中で、スプレーをライトクリーニングたわしに近付けて噴射します**。金属の部分は洗面台の下にもありますので忘れずに清掃しましょう。



その他の部分の清掃



次にシンクの部分や周辺の汚れをライトクリーニングたわしの白パット面を使って落としていきます。**白パット面は目が粗く、金属の部分をこすってしまうと傷が付いてしまいます**ので注意しましょう。

ライトクリーニングたわしでこすった後、**シンクに栓をして、トラップから水が流れ出すまで水をためます**。トラップに水が入っていないと臭いが上がってくることがあるので、定期的に水を入れるようにしましょう。

トラップに水を入れた後は、**白タオルをゆすいで水を流し**、固く絞ってまず**金属の部分**を拭き、その後、**シンクやシンクの周辺の部分**、**シンクの下**を拭き取ります。最後に**乾いた白タオル**で、同じ手順で仕上げ拭きを行います。

手順④：点検

最後に**点検**をします。床やシンクの外に水滴や汚れが残っていないか確認し、残っていたら拭き取りましょう。

手順⑤：報告

全ての工程が終了したら、**システムバケツに使用したタオルや洗剤、ライトクリーニングたわしをきれいにしまい、手袋を外し、資機材置き場に戻し、最後に作業表示板を片付け**ます。姿勢を正し、はっきりした声で報告をしましょう。

ゴム手袋の手入れ

使用した手袋は表面をきれいに洗ったら、裏返して裏側もきれいに洗います。裏返しのまま中指を上にして干しておきましょう。

9－2 トイレ（小便器）

（1）手順

- 手順①：資機材準備
- 手順②：洗浄の準備
- 手順③：洗浄
- 手順④：拭き上げ、点検
- 手順⑤：報告

便器清掃は衛生に気を付けて作業を進めていきましょう。

（2）小便器清掃での約束

- 約束①：便器清掃用の資機材を使用する。
- 約束②：衛生面に注意して作業する（手袋・マスクの着用）。

（3）用意するもの

システムバケツ 1セット

ピンクのゴム手袋 1双

白パッド 1枚

作業表示板 1枚

シューズブラシ 1つ

ﾋﾟﾝｸﾀｵﾙ 1枚

青タオル 1枚

白タオル 1枚

ﾄｲﾚ用洗剤 1本

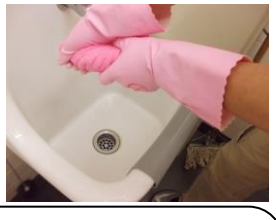
便器の清掃では、**ピンクのゴム手袋**を着用します。便器の中から汚水がはねることもあるので、**マスク**を着用しておくと安心でしょう。資機材はシステムバケツに入れます。普通のバケツには、作業時に目皿を入れておくので、水を3分の1ほど入れておきます。また、最初に表示板を入口に立てることを忘れないようにしましょう。

バケツ 1つ

マスク 1枚

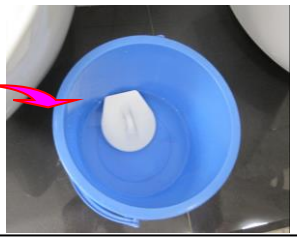
（4）作業の流れ

手順①：資機材準備



汚水を吸い込まないように、マスクで鼻と口をしっかり覆いましょう。**ゴム手袋は、裾を折り返さなくて良い**ですが、必要に応じて折り返しても構いません。システムバケツに必要な資機材を整理して入れ、普通のバケツには水を３分の１入れておきます。**白タオルとピンクタオルはあらかじめ、固く絞って**おきましょう。

手順②：洗浄の準備



まず、センサーが反応して水が流れないように、**ピンクタオルでセンサーに目隠しをし**ます。次に**目皿を、水を入れたバケツに移します**。目皿は陶器でできているものもあります。陶器でできているものは落とすと割れてしまいますので、落とさないように**両手で持って、慎重にバケツに移す習慣**を付けておきましょう。

手順③：洗浄

白パッドで洗う

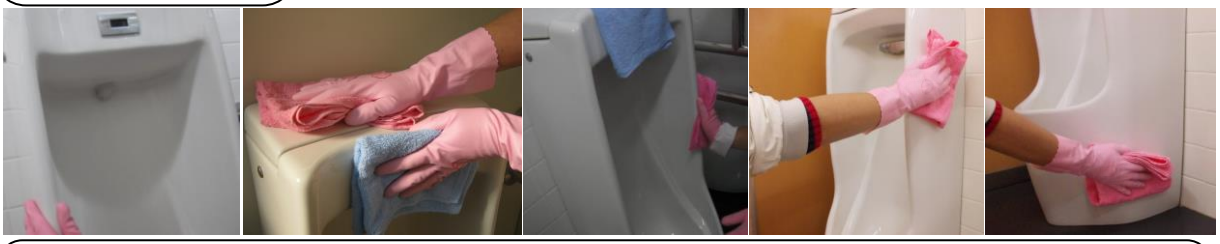
次に白パッドで便器を洗っていきます。床にこぼさないように、**便器の上で、白パッドにトイレ用洗剤を掛けます**。洗剤をなじませたら、**便器の外側を上面から、上から下に**洗っていきます。このとき、**センサーがある面は洗浄しません**。便器の一番下までしっかりと洗い、外側をまんべんなく洗ったら、**再度洗剤を便器の上で白パッドに掛け**、便器の内側を洗います。**水が出てくる部分**は水垢が付きやすいので、しっかりこすります。内側も上から下にまんべんなく洗ったら、**最後に排水口**を洗います。

万が一、便器の中を拭いているときにセンサーが反応して水が流れてしまったときには、水の流れに逆らって下から上に拭いてしまうと、水が大きくはねて自分にかかってしまうので、水の流れに逆らわないようにするか、作業を止めて、水の流れが止まるのを待ちましょう。

排水口、目皿

次に**シューズブラシ**を使って、**排水口の中**を洗います。目皿は手に持って、水の入った**バケツの上で、白パッドで洗います。裏も表も**きれいに汚れを落としたら元の位置に戻します。

便器の水拭き



洗い終わったら、センサーに掛けてあったピンクタオルを外し、水を一度流します。このとき**便器の上面をピンクタオルで拭き、その後、今度は青タオルをセンサーにかけます。**センサーから外したピンクのタオルで、洗剤を拭き取るように便器の**外側全体を上から下へ**拭いていきます。**便器の下側まで隙間なく**丁寧に拭き上げましょう。便器の**内側は拭きません。**

便器のから拭き

水拭きが終わったら、**青タオルで便器のセンサー部分や上面を拭いた後、白タオルでセンサーを隠し、外側を上から下**へ、から拭きします。便器の**内側は拭きません。**てすりの付いている小便器は、ここでてすりも拭いてしまいます。

手順④：拭き上げ、点検

最後に床にこぼれた水滴などを白タオルで拭き上げ、**点検**をします。便器にも水滴や汚れが残っていないか確認し、残っていたら拭き取りましょう。

手順⑤：報告

全ての工程が終了したら、**システムバケツに使用したタオルや洗剤をきれいにしまい、手袋を外し、資機材置き場に戻します。最後に作業表示板を片付けて**、姿勢を正し、はっきりした声で報告をしましょう。

複数の小便器清掃

複数の小便器が並んでいる場合、いくつかをまとめて「洗浄」「水拭き」等と進めていくと効率良く作業ができます。**ただし、お客様が利用できるように、一つは必ず使用できる状態にしておきましょう。**

9－3 トイレ（洋式便器）

（1）手順

- 手順①：トイレットペーパーの補充
- 手順②：資機材準備
- 手順③：洗浄
- 手順④：拭き上げ、点検
- 手順⑤：報告

便器清掃は衛生に気を付けて作業を進めていきましょう。

（2）洋式便器清掃での約束

- 約束①：衛生面に注意して作業する（手袋・マスクの着用）。
- 約束②：パッドやタオルを流さないように注意する。

（3）用意するもの

システムバケツ
1セット

ピンクのゴム手袋　1双

白パッド　1枚

作業表示板　1枚

ﾋﾟﾝｸﾀｵﾙ　1枚

青タオル　1枚

白タオル　1枚

ﾄｲﾚ用洗剤1本

マスク　1枚

洋式便器清掃も小便器清掃と同じように、**ピンクのゴム手袋**を着用します。便器の中から汚水が跳ねることもあるので、**マスク**の着用も忘れずにしておくと安心です。

資機材はシステムバケツに入れます。**最初に作業表示板を入口に立てること**も忘れないようにしましょう。目皿はありませんので、普通のバケツを用意する必要はありません。

（4）作業の流れ

手順①：トイレットペーパーの補充

初めに、**トイレットペーパーの補充と三角折りを**行います。これはまだ**手がきれいなうちにやってしまわなくてはならない作業**ですので、トイレ清掃全体の中でも最初に行うことが多いです。まず中途半端に残っていた部分を切り、ペーパーホルダーのふたの上で、左右からペーパーを折り返します。きれいに三角を作ったら、三角の先端が少しだけ出るように位置を調整して出来上がりです。個室がたくさんある場合は、先に全てのペーパーの補充を終わらせてしまいましょう。

手順②：資機材準備

汚水を吸い込まないように、マスクで鼻と口をしっかり覆いましょう。**ゴム手袋の裾は、折り返さないで使用します。**システムバケツに必要な資機材を使いやすいように入れておきます。ピンクタオルはあらかじめ絞っておきましょう。

手順③：洗浄

白パッドで洗う

次に白パッドで便器を洗っていきます。床にこぼさないように、**便器の上で、白パッドにトイレ用洗剤を掛けます**。洗剤をなじませたら、**ふたの裏**から洗い始めます。ふたと便座のすき間に汚れがたまりやすいので、丁寧に洗っていきます。次に**便座の上**、**便座の裏**、**便器の縁**、**便器の外側**の順に洗っていきます。外側をきれいに洗ったら、**便器の内側**を洗います。**水が出てくる部分**は水垢がつきやすいので、しっかりこすります。**内側も上から下に**まんべんなく洗ったら、**最後に排水口**を洗って、白パッドを絞ります。

便器の水拭き

洗い終わったら、**白パッドなどを流してしまわない**ように、便器の中に白パッドなどがないことを確認し、**ふたをしてから水を一度流します**。次に、あらかじめ固く絞っておいたピンクタオルで**水洗のレバーの金属部分**を拭き上げます。水拭きの手順は白パッドでの洗浄と同じです。便座の内側は汚れが付きやすいところなので、丁寧に拭き上げましょう。**便器の内側は拭きません。**

便器のから拭き

水拭きが終わったら、**青タオルで、てすりやペーパーホルダー、水洗のレバー**などを拭きます。次に便器を、**ピンクタオルと同じ手順**で拭いていきます。ピンクタオルと同様に**便器の内側は拭きません。**

手順④：拭き上げ、点検

最後に床にこぼれた水滴などを白タオルで拭き上げ、**点検**をします。便器にも水滴や汚れが残っていないか確認し、残っていたら拭き取りましょう。

手順⑤：報告

全ての工程が終了したら、**システムバケツに使用したタオルや洗剤をきれいにしまい、手袋を外します。最後に作業表示板を片付けて**、姿勢を正し、はっきりした声で報告をしましょう。

10　受検に当たって

検定では、審査員が検定表に基づいて、受検者の清掃技能を評価します。しかし、将来社会に出て働けるようになるためには、技能を高めていくだけではなく、自ら身だしなみを整え、挨拶や報告をしっかりとできるようになることも大切です。

そこで、この検定においても、身だしなみを整えてから受検することにしています。また、検定の中で、審査員に対して挨拶や報告を行う場面も設けています。

（1）　身だしなみ

検定の評価項目の中に、身だしなみについての項目はありません。しかし、清潔感のある服装をするなど、身だしなみを整えた上で受検することはとても大切なことです。日頃から自分で身だしなみを点検し、整えていく習慣を付けた上で、検定に臨むようにしましょう。

①　洗濯済みのきれいな作業着を着る(ズボンは長ズボンを履く)。
②　シャツの裾をズボンの中に入れる。
③　靴ひもはしっかりと結ぶ。靴のかかとは踏まずに履く。
④　帽子をかぶる。
⑤　ひげをそる。爪は短く切る。

（2）　挨拶や報告

検定は、挨拶から始まり、終了の報告で終わります。挨拶や報告をするときには、審査員の方を向いて姿勢を正しくし、はっきりとした声で行うようにしましょう。

＜作業を始めるとき＞

①　名前を呼ばれたら、「はい。」と返事をして審査員の前(又は、スタートライン)に立つ。

②　「○○特別支援学校（学園)、○○　○○(名前)です。よろしくお願いします。」と帽子をとって挨拶する。

③　帽子をとったまま審査員の説明を聞き、「始め。」の合図があったら、「始めます。」と言い、帽子をかぶって作業を始める。

＜作業が終わったとき＞

④　作業が終わったら、審査員に向かい、帽子をとって、「終わりました。」と報告し、審査員からの話を聞く。

⑤　審査員からの話が終わったら、「ありがとうございました。」とお礼を伝え、待機場所に戻る。

11　評価について

検定では、種目ごとの検定表に書かれた「検定の観点」に沿って審査を行い、参加賞又は１０級から１級までの級によって、受検者の清掃技能を評価します。

以下に、評価の仕方について説明します。

☆検定表の記載例☆

テーブル拭き

検定日：平成○○年○月○○日（○）　　都立○○○○特別支援学校　　高等部　　○年 氏名　○○　○○

No	☆	検定の観点	評価
①		資機材準備<白タオル１枚、バケツ１個、黄タオル１枚>	◎
②	☆	水を入れる前にタオルを畳む<横長に構える、正しい畳み方、八つ折にする、空中で畳む、端がそろっている、黄タオルは床に着けない>	◎
③		バケツに水を入れる<水を入れる前に・テーブルの左側に・養生の白タオルを敷く、水の量は３分の１程度>	◎
④	☆	しぼる<四つ折～八つ折～16折にして、バットと同じ握り方、先端を下に向ける、腕を伸ばしながら内側に絞る、しっかり絞れている、立つ前に手を拭く>	◎
⑤		タオル絞りの姿勢<片膝を着く、膝を着けた脚はつま先を立て・床にべたっとすねを着けない>	◎
⑥		持つ<バラバラの方を親指で挟む、指を伸ばす、手をタオルの中心に置く、タオルが真っすぐ向いている、手のひらを浮かさない>	◎
⑦		縁を拭く<自分から遠いところから・一周する、隅を拭き残さない、辺を拭き残さない、力を入れて拭く>	○
⑧		中央を拭く<自分から遠い方から、横・縦・横・縦の順で、真っすぐに拭く、拭き跡が重なるように、力を入れて拭く>	◎
⑨		ひっくり返す<タオルの手前又は奥側を持って・縦にひっくり返す、バラバラの方が親指側にくる>	◎
⑩		効率の良い拭き方<正しい作業動線で行う、同じ所を何度も拭かない、手をついた所は拭き取る（テーブル上面に手を付かない）>	△

できていた　できていなかった

タイム	3'４８"	級	3級

全ての種目において、①から⑩までの、１０の項目ごとに評価を行います。

各項目とも、それぞれ「検定の観点」が設定されており、審査員は、受検者が作業する様子を見て、できていた箇所には○を、できていなかった箇所には△を記入します。

検定の観点が全て○→評価欄は◎になる。

検定の観点に△が１個→評価欄は○になる。

検定の観点が全て○→評価欄は◎になる。

検定の観点に△が２個→評価欄は△になる。

検定の観点の右側には、「評価」を記入する欄があります。項目ごとに見て、検定の観点が全て○の場合は、評価の欄に◎を記入します。同様に、△が１個ある場合は○、△が２個以上ある場合は△を記入します。

No	☆
①	
②	☆
③	
④	☆

また、いずれの種目にも、基本中の基本として、必ず身に付けてほしい項目を二つ設定しており、検定表の項目番号の隣に☆を付けて表しています。

☆の付いた二つの項目の評価欄を最初に確認します。

- ☆の付いた項目の◎が**0**個の場合は、参加賞となります。
- ☆の付いた項目の◎が**1**個の場合は、１０級になります。
- ☆の付いた項目が**2**個とも◎の場合は、９級又はそれ以上の級になります。

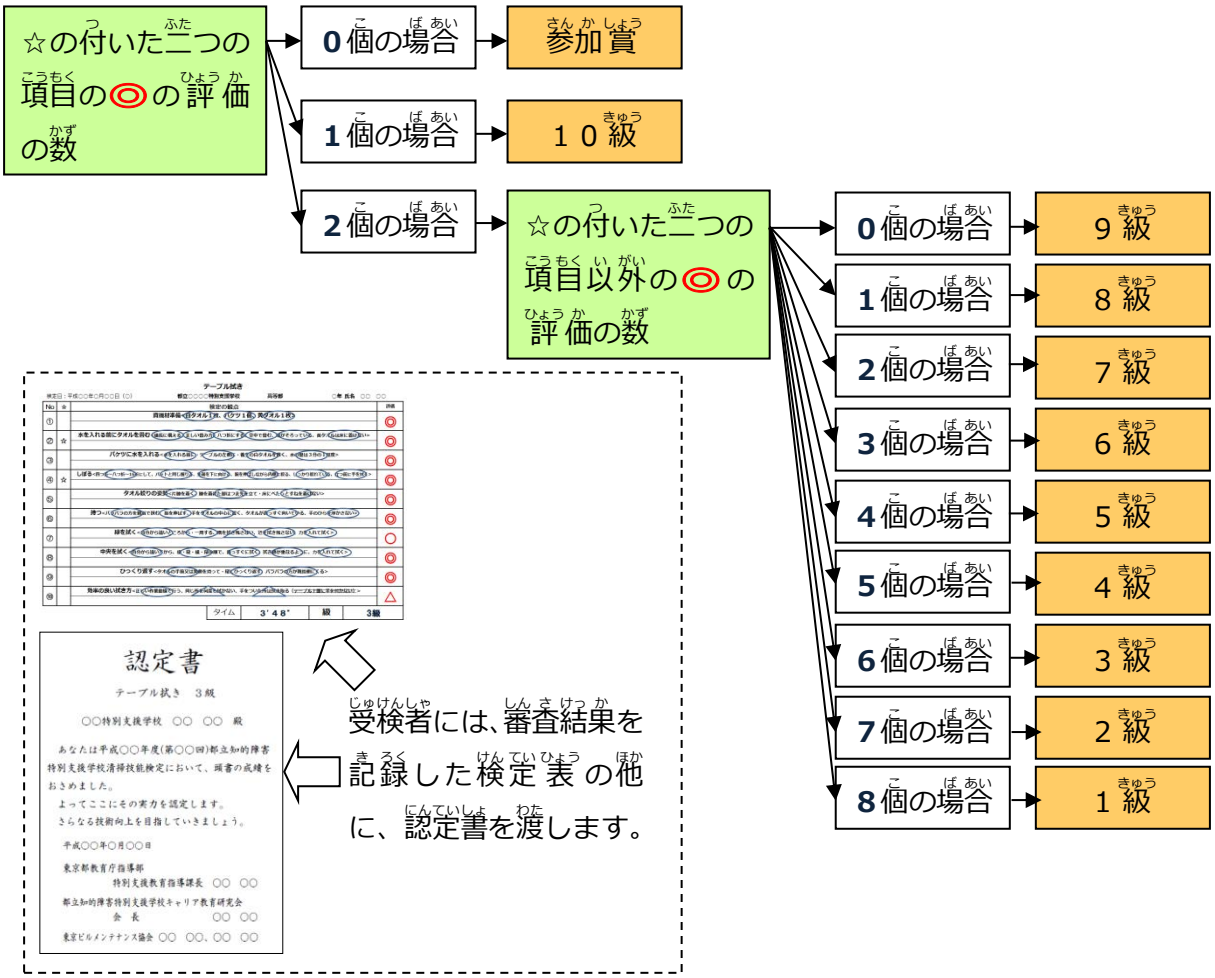
No	☆	評価
①		◎
②	☆	◎
③		◎
④	☆	◎
⑤		◎
⑥		◎
⑦		○
⑧		◎
⑨		◎
⑩		△

９級以上の級は、☆の付いた二つの項目以外の◎の評価の数によって決めます。

◎が８個あれば１級、◎が７個あれば２級になります。

この場合は◎が６個あるので、３級になります。

級の決め方を整理したのが下の図です。



12　おわりに

検定では、様々な清掃作業の中から、１０種類の作業について実施しています。検定を受検するための必要な技能を身に付けられるよう、このテキストを作成しました。受検に向けては、このテキストを使って、基本的な技能を身に付けてください。

実際に検定を受けるときには緊張してしまい、普段学校で練習しているときよりも、上手に作業できないことがあるかもしれません。緊張してしまっても、正確な作業が行えるよう、日頃から十分に練習を積み重ねておくことが大切です。

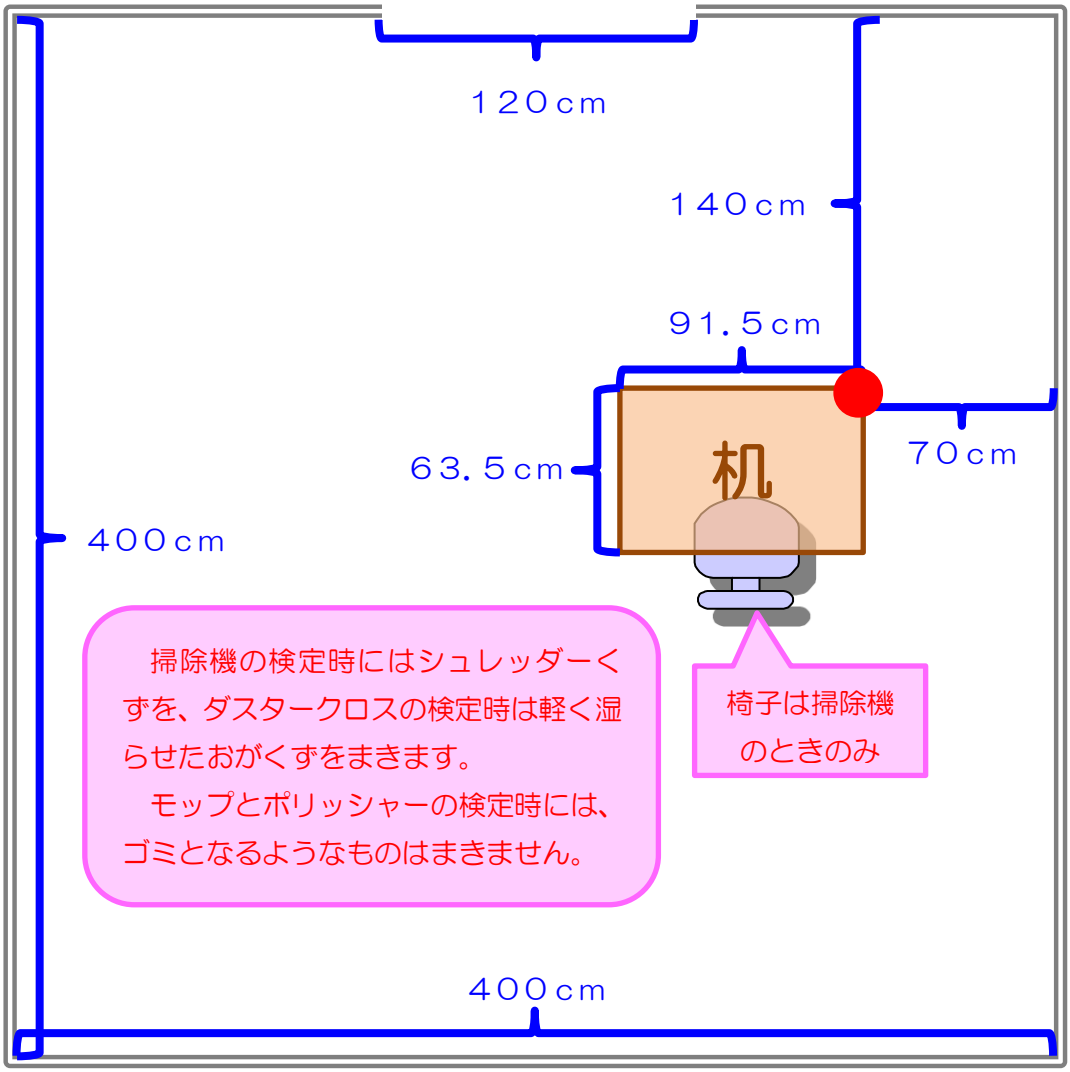
また、身に付けた技能は、検定を受ける時だけではなく、校内や校外、自宅等での清掃作業にも、活用してほしいと考えています。

検定のように決まった場所以外で清掃作業を行う場合は、作業を行う場所に合わせて、効率的な作業を進めていく必要があります。基本的な技能を応用して、様々な場所で正確かつ効率的な作業が行えるように、学習を深めてください。

検定を受検することで、日頃の学習の成果を確かめることができます。
多くの生徒の受検を期待しています。

資 料 編

1　床清掃会場の規格（モップ、ダスタークロス、ポリッシャー、掃除機用）



（１）　机の大きさは国家資格であるビルクリーニング技能士の実技試験で用いられている規格を示しています。検定を実施する際、同じ大きさの机がない場合は、これに準ずる大きさの机を用いて実施します。机の大きさが異なる時でも、●の位置は図のとおりとします。

（２）　コートの大きさはこの大きさを基準としますが、各会場の状況により、多少狭くなることもあります。ただし、出入口の幅は１２０ｃｍとします。また、コートを示すラインは、ラインテープや養生テープなどを使用したり、専用のステンレス製の枠※１を使用したりすることもあります。

（３）　床材は、掃除機の場合はタイルカーペット※２、その他の種目の場合はＰタイル※３かリノリウム※４が望ましいのですが、会場の状況によって素材が異なる場合があります。

※１　検定会場の学校が（公社）東京ビルメンテナンス協会から貸与を受けている専用枠を使用することがあります。
※２　概ね３０cm 角程度の大きさの、タイル状のカーペットのことを指します。
※３　塩化ビニル樹脂など、硬質な素材を使ったプラスチック系床材のことを指します。
※４　亜麻仁油などから作るリノリウム・セメントとコルク粉などを混ぜ，麻布に塗り付けた床材のことを指します。
多くの学校で、廊下などの床材に用いられています。

２　床清掃会場の規格（自在ぼうき用）

（１）　コートの横幅は２００ｃｍを基準としていますが、Ｐタイル(一辺３０ｃｍ)７枚分とする場合もあります。この場合、コートの横幅は２１０ｃｍとなります。

（２）　出入口の幅は１００ｃｍ～１２０ｃｍとします。

（３）　床材は、Ｐタイルかリノリウムが望ましいのですが、会場の状況によって素材が異なる場合もあります。木でできた床の場合は、おがくずが見えにくくなり、また、おがくずが木のつなぎ目に入り込んでしまうこともあります。そこで、おがくずの取り残しとして減点する基準については、事前に審査員の間で協議しておくようにしています。このことはダスタークロスのときも同様です。

３　各種目の制限時間

	種　　目	制　限　時　間
1	テーブル拭き	５分
2	自在ぼうき	１０分
3	モ　ッ　プ	１０分
4	ウインドウスクイージー	１２分
5	ダスタークロス	１０分
6	ポリッシャー	１５分
7	掃　除　機	１５分
8	トイレ（洗面台）	２０分
9	トイレ（小便器）	２０分
１０	トイレ（洋式便器）	２０分

（平成２８年２月現在）

（１）　種目ごとに制限時間を設定しています。審査員が「はじめ。」と言った時点から、受検者が「終わりました。」と報告するまでの所要時間を計測します。

（２）　制限時間は、準備・片付けの時間も含んでいます。途中で水をくみに行く必要がある種目について、検定会場から水道までの距離が離れている場合は、その間の計測を止めるなどの配慮をしています。

（３）　制限時間を超えた時点で、審査員は受検者に対して、「そこまでで終了してください。」と伝えます。制限時間を超えたから級がもらえないということではなく、その時点までの審査の結果により級を認定します。

テーブル拭き

検定日：　　年　　月　　日（　　）　　特別支援学校・学園　　(高等部・中学部)　　年 氏名

No	☆	検定の観点	評価
①		資機材準備<白タオル１枚、バケツ１個、黄タオル１枚>	
②	☆	水を入れる前にタオルを畳む<横長に構える、正しい畳み方、八つ折にする、空中で畳む、端がそろっている、黄タオルは床に着けない>	
③		バケツに水を入れる<水を入れる前に・テーブルの左側に・養生の白タオルを敷く、水の量は３分の１程度>	
④	☆	しぼる<四つ折～八つ折～16折にして、バットと同じ握り方、先端を下に向ける、腕を伸ばしながら内側に絞る、しっかり絞れている、立つ前に手を拭く>	
⑤		タオル絞りの姿勢<片膝を着く、膝を着けた脚はつま先を立て・床にべたっとすねを着けない>	
⑥		持つ<バラバラの方を親指で挟む、指を伸ばす、手をタオルの中心に置く、タオルが真っすぐ向いている、手のひらを浮かさない>	
⑦		縁を拭く<自分から遠い所から・一周する、隅を拭き残さない、辺を拭き残さない、力を入れて拭く>	
⑧		中央を拭く<自分から遠い所から、横・縦・横・縦の順で、真っすぐに拭く、拭き跡が重なるように、力を入れて拭く>	
⑨		ひっくり返す<タオルの手前又は奥側を持って・縦にひっくり返す、バラバラの方が親指側にくる>	
⑩		効率の良い拭き方<正しい作業動線で行う、同じ所を何度も拭かない、手をついた所は拭き取る（テーブル上面に手を付かない）>	

タイム		級	

検定表 <平成２８年２月版>

自在ぼうき

検定日：　　年　　月　　日（　　）　　特別支援学校・学園　　(高等部・中学部)　　年 氏名

No	☆	検定の観点	評価
①	☆	**資機材準備・片付け**<作業表示板は最初に出して最後に片付ける、フロア用の自在ぼうき、ちりとりは裏返しに置く、終わったら元の位置に戻す>	
②	☆	**持ち方**<ハンドルをあごの下の高さに調整、左手が上・右手が下、ハンドルの先端を左手親指で押さえる、右手は順手で持つ、ほうきの向きを確認する>	
③		**出入口**<自分の足が入る前に、横に３～４回掃き、歩くスペースを確保する、押し掃きにならない>	
④		**おさえばき①**<（L字ばき①）自分のかかとのやや後方から始める・45度を維持する・ラインから離れない>	
⑤		**おさえばき②**<（L字ばき②）つま先の前までほうきを出す、頂点で押さえをゆるめない、頂点から真横に掃く>	
⑥		**おさえばき③**<自在ぼうきを床に押し付けるようにして掃く、はき終わりで毛先を振り上げない、押し掃きにならない>	
⑦		**おさえばき④**<掃いた後は必ず床にトントンと自在ぼうきをたたきつけ、毛先についたホコリを落とす、ゴミの上でトントンしない>	
⑧		**後方から前方へ掃く**<ほうきの向き変え、持ち替え、おさえばき、押し掃きにならない、トントンをする>	
⑨		**ゴミの処理**<正しい構えでほうきとちりとりを持つ、ちりとりの中にほうきの先半分を入れる、ほうきの向き・持ち方を間違えない、トントンをする>	
⑩		**仕上がりが良い**<正しい作業動線で行う、隙間なく掃く、ゴミの上を歩かない、隅までしっかり掃く、ゴミの取り残しがない>	

タイム		級	

モップ

検定日：　　年　　月　　日（　　）　　特別支援学校・学園　　(高等部・中学部)　　年 氏名

No	☆	検定の観点	評価
①		資機材準備・片付け<作業表示板は最初に出して最後に片付ける、白いラーグ、ハンドル、終わったら元の位置に戻す>	
②	☆	ハンドルのセット<ハンドルを肩にかつぐ、ピンチを逆手で持ち自力で開く、ジョイント部に真っすぐはめる、目の高さで調節、しっかり固定する>	
③	☆	ラーグを絞る<スクイーザーかリンガーで・横木やハンドルを挟まない・自力でラーグをしっかり挟む、ラジェット(ペダル)を動かして絞る>	
④		持ち方<右手が上・親指でハンドルの先端を押さえる、左手は順手でハンドルを握る、壁際は右手が肩の前、中央は体の前で横に構える>	
⑤		部屋の隅<右膝を着く、左肩にハンドルをかつぐ、ラーグの右端・指を伸ばして押さえ指を先行させる、壁に触れない、ハンドルを壁に当てない、拭いた後を踏まない>	
⑥		壁際<幅木にラーグを着けない、ラーグは横木の後ろ、押し拭き、真っすぐ進む、壁から離れすぎない、拭いた後を踏まない>	
⑦		机の脚まわり<左膝を着く、右肩にハンドルをかつぐ、ラーグを左手で持つ、机の脚にラーグが触れない、ハンドルを壁や机に当てない、拭いた後を踏まない>	
⑧		机の下<持ち方を変える、机の右側・中・左側・手前の順に拭く、机の脚にラーグが触れない、ハンドルを机に当てない、拭いた後を踏まない>	
⑨		広いところ<小さくバックしながら拭く、ラーグは長く使う、横木を浮かさない、真横にラーグを動かす、壁や机にラーグを当てない、拭いた後を踏まない>	
⑩		仕上がり<正しい作業動線で行う、向きを変えるごとにラーグをひっくり返す、拭き跡は少し重ねる、出入口はラーグを手で持ち安全に拭く>	

タイム		級	

ダスタークロス

検定日：　　年　　月　　日（　　）　　特別支援学校・学園　　(高等部・中学部)　　年 氏名

No	☆	検定の観点	評価
①		資機材準備・片付け<作業表示板は最初に出して最後に片付ける、ハンドル・ホルダー・クロス・フロア用自在ぼうき・文化ちりとり・ゴミ箱、終わったら元の位置に戻す>	
②	☆	クロスのセット<クロスの中央に置く、ピンチを開く、クロスをはさむ、ピンチを閉じる、４か所ともとまっている>	
③	☆	ハンドルのセット<ハンドルを肩にかつぐ、ピンチを逆手で持ち自力で開く、ジョイント部に真っすぐはめる、目の高さで調節、しっかり固定する>	
④		構え<ホルダーを幅広の方を前に向けて・利き手が上・親指でハンドルの先端を押さえる、反対の手は順手でハンドルを握る、壁際は右手が肩の前、振る時はやや外側>	
⑤		入口・壁際<入口の左端から弧を描く、壁から離れすぎない、壁にホルダーを当てない、クロスを浮かさない、バックしない、拭いた後を歩く>	
⑥		部屋の隅<幅木にホルダーを当てない、角が近付いたらホルダーを45度にし・ぎりぎりまで進む、クロスを浮かさない、バックしない、拭いた後を歩く>	
⑦		机の周囲<机の脚にホルダーを当てない、机にハンドルを当てない、クロスを浮かさない、バックしない、拭いた後を歩く>	
⑧		中央の拭き方<スネイクの動作を行う、ハンドルの付け根付近を中心に回転させない、隙間なく拭く、向きを変えない、クロスを浮かさない、バックしない、拭いた後を歩く>	
⑨		クロスの処理<コート内で処理、クロスを浮かさないように・ハンドル・クロスを外す、ゴミのないところでクロスを裏返す、汚れた面を内側にして畳む、捨てる>	
⑩		仕上がり<正しい作業動線で行う、自在ぼうきとちりとりを正しく使う(ハンドルの調節・脇に抱える・ゴミを取りやすい位置に立つ・毛先の半分をちりとりに入れる)、取り残しがない>	

タイム		級	

ウインドウスクイージー

検定日：　　年　　月　　日（　　）　　特別支援学校・学園　　(高等部・中学部)　　年 氏名

No		検定の観点	評価
①	☆	資機材準備<スクイージー１本、システムバケツ１セット、白タオル２枚、スクイージーの刃は上に向けバスケットに入れて運ぶ、所定の場所に置いたらスクイージーを掛ける>	
②	☆	水拭き<正しくタオルを畳む、正しい絞り方、タオルは緩めに絞る、正しい持ち方、ガラスの縁を１周拭いたら折返す、隅までタオルを入れる、マーカーの汚れを落とし切る>	
③		スクイージーを拭くタオルの準備<正しい絞り方(バットと同じ握り方・片膝を着く)、固く絞る、正しい畳み方(八つ折り)・正しい持ち方>	
④		縦引き<ガラスにスクイージーを当てたら左側を少し下げる、膝を使う、拭き跡を重ねる、下は15cmほど残す、途中で止まらない>	
⑤		横引き<窓の下方の余分な水滴をタオルで拭き取る、スクイージーの上側を少し倒す、スクイージーの真下の窓枠をタオルで押さえる、端は15cmほど残す、途中で止まらない、浮かさない>	
⑥		扇引き<ガラスに体を近付け・片膝を着き・腰を落とす、支点の下をタオルで押さえる、途中で止まらない、浮かさない、手首は最後まで持ち上げない>	
⑦		スクイージーの刃を拭く<縦引きの前に一度拭く、一度使うたびに必ず拭く、刃の端から端まで・下から上に拭く>	
⑧		窓枠を拭く<タオルは横長の16折、山折り側がガラスに近い方、タオルをガラス面にはみ出させない、途中で面を変える、水拭きの後から拭きで同じことをする>	
⑨		面取り<から拭きタオルを二つ折まで広げる、人さし指を入れ・漢字の口の書き順で拭く、一辺を拭いたら乾いた場所を出す、ガラスに触らない>	
⑩		仕上がり<正しい作業動線で行う、ガラスや窓枠に水が残っていない、バーと床を隙間なく拭く、スクイージーを刃・グリップ・中の順に拭く、元の位置に片付ける>	

タイム		級	

ポリッシャー

検定日：　　年　　月　　日（　　）　　特別支援学校・学園　　(高等部・中学部)　　年 氏名

No	☆	検定の観点	評価
①	☆	資機材準備<作業表示板は最初に出す、バケツ・白タオル２枚・マイナスドライバー・赤パッド・パッド台・飛散防止カバー・ポリッシャー本体>	
②	☆	機能理解<右レバーを握るとパッド台が回る・安全装置を押しながら握る、左レバーを握ると洗剤が出る>	
③		セット①<パッド台に赤パッドを付ける、倒す、コンセントを差し込む、起動確認、パッド台を付ける、起こす、飛散防止カバーを付ける>	
④		セット②<コードを数回分とってコート内に移動、ハンドル倒す、開栓、タイヤを上げる、コードを整える、この間ハンドルを離さない>	
⑤		縦横移動<回転させたまま自分の前で２０秒間止められる、ポリッシャー本体は自分の前にあるように維持、縦移動は真っすぐ下がる、隙間なく・直線的に洗浄、洗浄後を踏まない>	
⑥		部屋の隅<ポリッシャーを壁に強くぶつけない、隅にポリッシャーを固定したまま自分が右へ弧を描くように移動、洗浄後を踏まない>	
⑦		机の周囲<ポリッシャーを机の脚に当てない、コードを机に当てない、机の右→中→左→手前の順に洗浄、洗浄後を踏まない>	
⑧		コードの処理<踏まない・蹴らない・またがない、ポリッシャーに巻き込まれない、後半は安全にコードを巻き取りながら作業する>	
⑨		片付け①<タイヤを下ろす、閉栓、ハンドル立てる、マットの上に戻す、コンセントを抜く、倒す、飛散防止カバーを汚れた面を内側にして折り・パッドの上部に付け・パッドを下からめくってくるみ・白タオルを添えてバケツへ>	
⑩		片付け②<パッド台を外す、パッド台と本体を拭き上げ、コードを拭きながらきれいに巻きとる、作業動線が正しい、床を隙間なく拭き上げる、元の位置に戻す、表示板は最後に片付ける>	

タイム		級	

掃除機

検定日：　　年　　月　　日（　　）　　特別支援学校・学園　　(高等部・中学部)　　年 氏名

No	☆	検定の観点	評価
①		資機材準備・片付け<作業表示板は最初に出して最後に片付ける、本体・ホース・ウォンド・ノズル・白タオル、終わったら元の位置に戻す>	
②		セット<ホース・ウォンド・ノズルの組み立て、ノズルは上に向けて置く、プラグを持ってコンセントを差し込む、起動確認>	
③	☆	掃除機の移動<作業しやすい位置に持ち上げて移動する、ホースで引っ張らない>	
④	☆	構え<右手が上、左手は順手で下、左足が前、ホースを体の右側にして持つ(左利きは全て反対)、常にノズルを床にぴったりと吸い付かせる>	
⑤		動線<前進作業、コートに自分が入る前に出入口を吸塵、吸い込んだ後を歩く、隙間なく吸い込む、ゴミを踏まない、ゴミ箱をどかす・元に戻す>	
⑥		部屋の隅・壁際<壁に対して直角に吸塵したところは壁際を壁に沿って吸塵する、壁にぶつけない、向き変えのときに隙間を作らない、壁から離れ過ぎない>	
⑦		机の周囲<机の脚等にノズルやコードをぶつけない、椅子を引く→机の手前→椅子を戻す→移動→裏側の順で掃除機をかける>	
⑧		コード・ホースさばき<踏まない・蹴らない・またがない>	
⑨		片付け<プラグを持ってコンセントを抜く、拭き上げ、ホース・ウォンド・ノズルを分解してケースへ、コードを拭きながら巻く>	
⑩		仕上がり<正しい手順で作業を進める、点検をする、取り残しがない(拾ったゴミはポケットへ入れる) >	

タイム		級	

トイレ（洗面台）

検定日：　　年　　月　　日（　　）　　特別支援学校・学園　　(高等部・中学部)　　年 氏名

NO	☆	検定の視点	評価
①	☆	資機材の準備<作業表示板は最初に出す、システムバケツ、青い手袋、白タオル２枚、ライトクリーニングたわし、マイクロクロス、中性洗剤>	
②	☆	衛生面の配慮<手袋をつけ・裾を２ｃｍほど折り返す、鏡は拭いた後は手で触らない>	
③		鏡清掃①<マイクロクロスを・洗面台の上で・半分ほど濡らし・絞る>	
④		鏡清掃②<鏡の縁・真ん中の順に拭く、直線的に・隙間なく・拭き残しがないように拭く（上部は手の届くところまで）>	
⑤		洗浄①<ライトクリーニングたわしを濡らして絞り・洗面台の上で・スプレーを近付けて・洗剤をかける>	
⑥		洗浄②<ライトクリーニングたわしの黄色いスポンジ面で・金属部分（蛇口・排水口・液体石鹸のボトル・排水管等）を洗浄>	
⑦		洗浄③<ライトクリーニングたわしの白パッド面で・シンクの内側・周辺・シンクの下部を洗浄、金属部分をこすらないように注意>	
⑧		洗面台の水拭き<シンクに水をため・トラップに水を流す、白タオルを絞り・金属部分・その他の部分を拭き上げ>	
⑨		仕上がり<水拭きの後に乾いたタオルで仕上げる、正しい手順で作業を進める、点検・水滴や鏡の曇りを残さない>	
⑩		片付け<システムバケツにきれいにしまう、所定の場所に資機材を置く、作業表示板は最後に片付ける>	

タイム		級	

トイレ（小便器）

検定日：　　年　　月　　日（　　）　　特別支援学校・学園　　(高等部・中学部)　　年 氏名

NO	☆	検定の視点	評価
①	☆	資機材の準備<作業表示板は最初に出す、システムバケツ、ピンクの手袋、ピンクタオル、青タオル、白タオル、シューズブラシ、バケツ、白パッド、トイレ用洗剤、マスク>	
②	☆	衛生面の配慮<手袋を着用、マスクは鼻と口を覆う、膝を床に着かない、顔を便器につっこまない>	
③		セット<白タオルを絞る、ピンクタオルを絞る、センサーをピンクタオルで隠す、バケツに水を３分の１入れ・目皿を両手で持って入れる>	
④		洗浄①<便器の上で・白パッドに洗剤を掛ける、便器の上面を洗浄、外側の上から下へ洗浄>	
⑤		洗浄②<再度便器の上で白パッドに洗剤を掛ける・便器の内側を上から下へ・水の出るところをしっかり・最後に排水口を洗浄>	
⑥		排水口・目皿<シューズブラシで・排水口の中をしっかり洗う、目皿は水の入ったバケツの中で・白パッドで裏表ともに洗い・元に戻す>	
⑦		便器の水拭き<ピンクタオルを外して水を流す、便器の上面を拭く、青タオルでセンサーを隠す・ピンクタオルで便器の外側を上から下へ拭く>	
⑧		便器のから拭き<センサーを白タオルで隠す、青タオルで・便器の上面・センサー付近を拭く・外側を上から下へ拭く・内側は拭かない>	
⑨		仕上がり<正しい手順で作業を進める、点検、白タオルで・床にこぼれた水を拭き取る、水洗の水が自分にかかっていない>	
⑩		片付け<システムバケツにきれいにしまう、所定の場所に資機材を置く、作業表示板は最後に片付ける>	

タイム		級	

トイレ（洋式便器）

検定日：　　年　　月　　日（　　）　　特別支援学校・学園　　(高等部・中学部)　　年 氏名

NO	☆	検定の視点	評価
①	☆	資機材の準備<作業表示板は最初に出す、システムバケツ、ピンクの手袋、ピンクタオル、青タオル、白タオル、白パッド、トイレ用洗剤、マスク>	
②		セット<まずトイレットペーパーの端を三角に折る、手袋をつける、白タオルを絞る、ピンクタオルを絞る>	
③	☆	衛生面の配慮<手袋の裾を２ｃｍほど折り返す、マスクは鼻と口を覆う、膝を床に着かない、顔を便器につっこまない>	
④		洗浄①<便器の上で・白パッドに洗剤を掛ける、便器のふたの裏・ふたと便座の境目・便座・便座の裏・便座の内側のふちを洗浄>	
⑤		洗浄②<便器の外側を上から下へ・便器の縁・縁の裏側・便器の内側・最後に排水口を洗う、ふたをして・水を流す>	
⑥		便器の水拭き①<ピンクタオルで・水洗レバー・便器のふたの上と裏・ふたと便座の境目・便座・便座の裏・便座の内側の縁を拭き上げ>	
⑦		便器の水拭き②<便器の外側を上から下へ・便器の縁・縁の裏側を拭く、便器の内側は拭かない>	
⑧		便器のから拭き<青タオルで・ペーパーホルダー・てすりを拭く、他は水拭きと同じ手順で拭く、内側は拭かない>	
⑨		仕上がり<正しい手順で作業を進める、点検、白タオルで・床にこぼれた水を拭き取る、水洗の水が自分にかかっていない>	
⑩		片付け<システムバケツにきれいにしまう、所定の場所に資機材を置く、作業表示板は最後に片付ける>	

タイム		級	

平成２７年度都立知的障害特別支援学校キャリア教育推進委員会

所　　属	職	氏　　名	備　　考
都立青鳥特別支援学校	校　長	山内　俊久	
都立石神井特別支援学校	校　長	豊田　栄治	清掃技能検定部会長
都立足立特別支援学校	校　長	髙橋　　馨	清掃技能検定部会部会長代理
都立白鷺特別支援学校	校　長	田邊　陽一郎	喫茶接遇サービス技能検定部会長
都立府中けやきの森学園	副校長	中島　由美子	清掃技能検定部会副部会長
都立田園調布特別支援学校	副校長	山﨑　幸宏	喫茶接遇サービス技能検定部会副部会長

同推進委員会清掃技能検定部会

所　属	職	氏　名	所　属	職	氏　名
都立青鳥特別支援学校	主幹教諭	半田　利和	都立白鷺特別支援学校	主任教諭	林田　修※
	主任教諭	黒澤　望	都立板橋特別支援学校	主任教諭	上代　宗昭
	主任教諭	武市　正志※		主任教諭	中嶌　祐治
都立王子特別支援学校	教　諭	佐藤　浩士	都立田無特別支援学校	主任教諭	髙城　大樹
都立八王子特別支援学校	主任教諭	兼山　淳一		教　諭	山口　祐太郎
	主任教諭	髙水　はるか※	都立田園調布特別支援学校	主任教諭	佐々木　亜衣
都立七生特別支援学校	教　諭	道明　梓		教　諭	野田　海里
都立羽村特別支援学校	教　諭	粕谷　裕之		教　諭	平沼　亨※
都立墨田特別支援学校	主任教諭	小林　隆司	都立多摩桜の丘学園	教　諭	山本　悦子
都立江東特別支援学校	教　諭	高橋　克彦	都立府中けやきの森学園	主幹教諭	上野　哲※
都立中野特別支援学校	教　諭	川相　哲昭		教　諭	板垣　雄吾
都立足立特別支援学校	主幹教諭	森田　仁※	都立練馬特別支援学校	主任教諭	井上　真登※
	教　諭	近内　穂高		教　諭	藤村　佳也
都立清瀬特別支援学校	主任教諭	藤岡　雄一郎※			

※　編集を担当した委員を表す。

平成２７年度キャリア教育の普及・啓発に係る指導資料

平成２７年度改訂版　都立知的障害特別支援学校清掃技能検定テキスト

東京都教育委員会印刷登録　平成２７年度第２１９号

発 行 日　平成２８年３月３１日
発　　行　東京都教育庁指導部特別支援教育指導課
所 在 地　東京都新宿区西新宿２－８－１都庁第一本庁舎３８階北側
電　　話　０３－５３２０－６８４７